

第1章

岩国市の現状と 都市づくりの課題

1. 岩国市の概況
2. 都市計画区域の概況
3. 市民の意向
4. 策定後からの社会状況の変化
5. 岩国市の特性と課題を踏まえた
目指す都市の姿

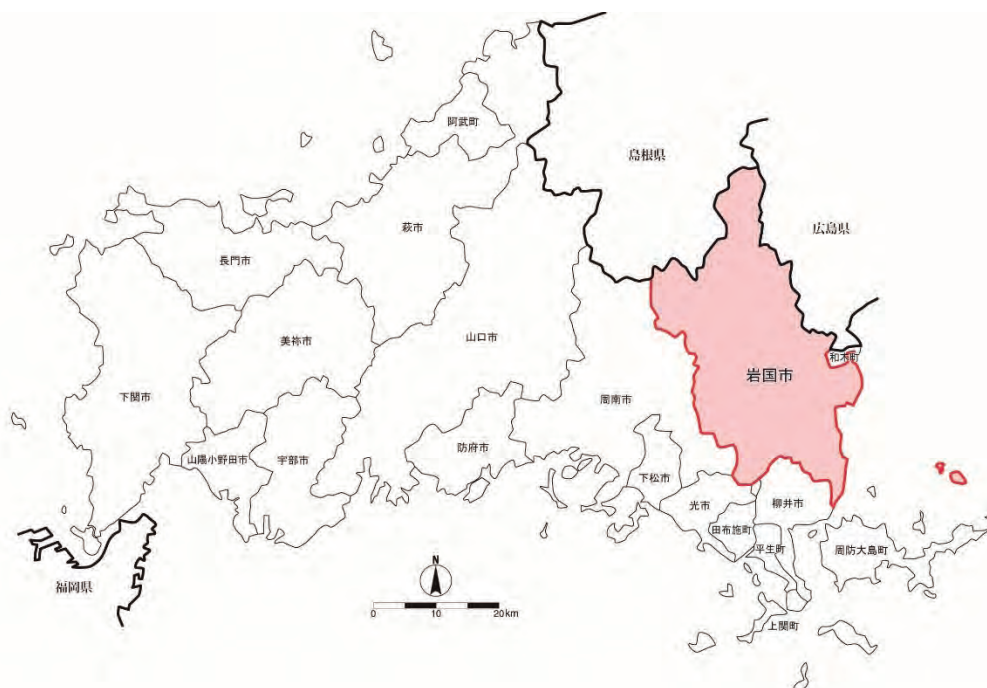
第1章 岩国市の現状と都市づくりの課題

1. 岩国市の概況

(1) 位置・地勢

本市は、山口県の東部に位置し、市域面積873.67km²と山口市に次いで県下第2位の広さを有しています〔2025（令和7）年4月1日現在〕。

市の北端には、標高が県内第1位の寂地山（標高1,337m）をはじめとする中国山地の山々が連なり、県下最大の二級河川錦川や、島田川、由宇川等の水系に沿って盆地や平野が形成されています。



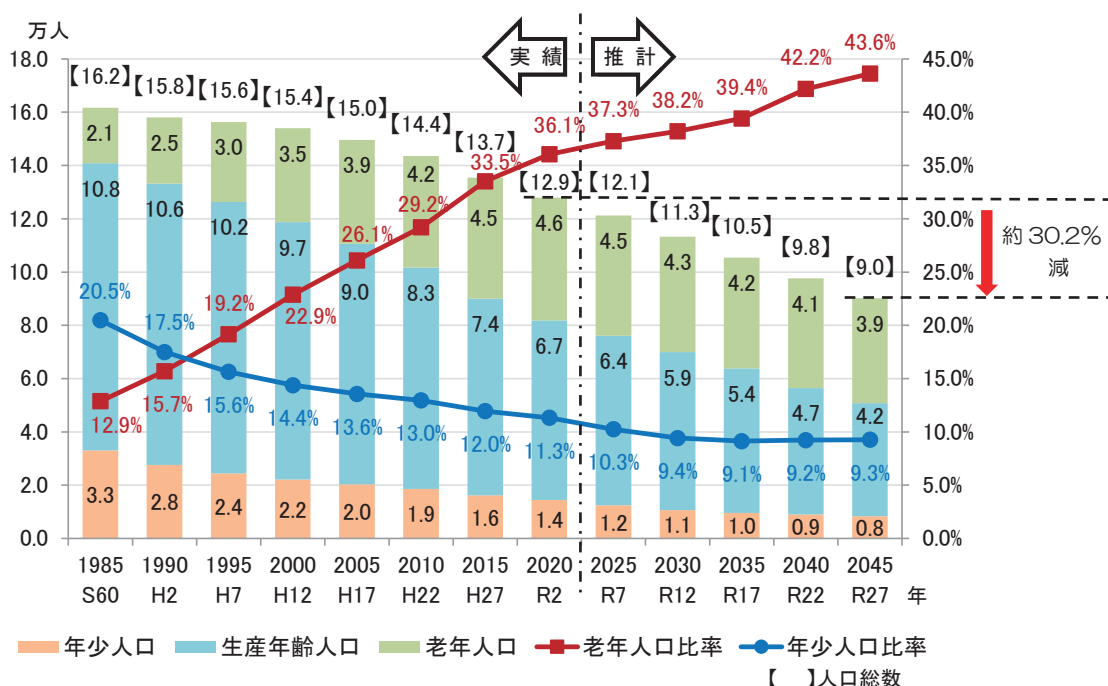
(2) 人口・年齢別人口構成

2020（令和2）年の本市の国勢調査人口（以下、「人口」という。）は129,125人で、減少傾向が続いています。国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の人口推計によると、2045（令和27）年は、市全域で減少し、2020（令和2）年よりも30.2%減少すると推計されています。

年齢階層別人口では、少子高齢化が進行しており、1995（平成7）年に老年人口（64歳以上の人口）が年少人口（15歳未満の人口）を上回り、その差は年々広がっています。今後は、年少人口・生産年齢人口は減少し続け、老年人口も減少に転じることから、人口減少は更に進行すると推計されています。

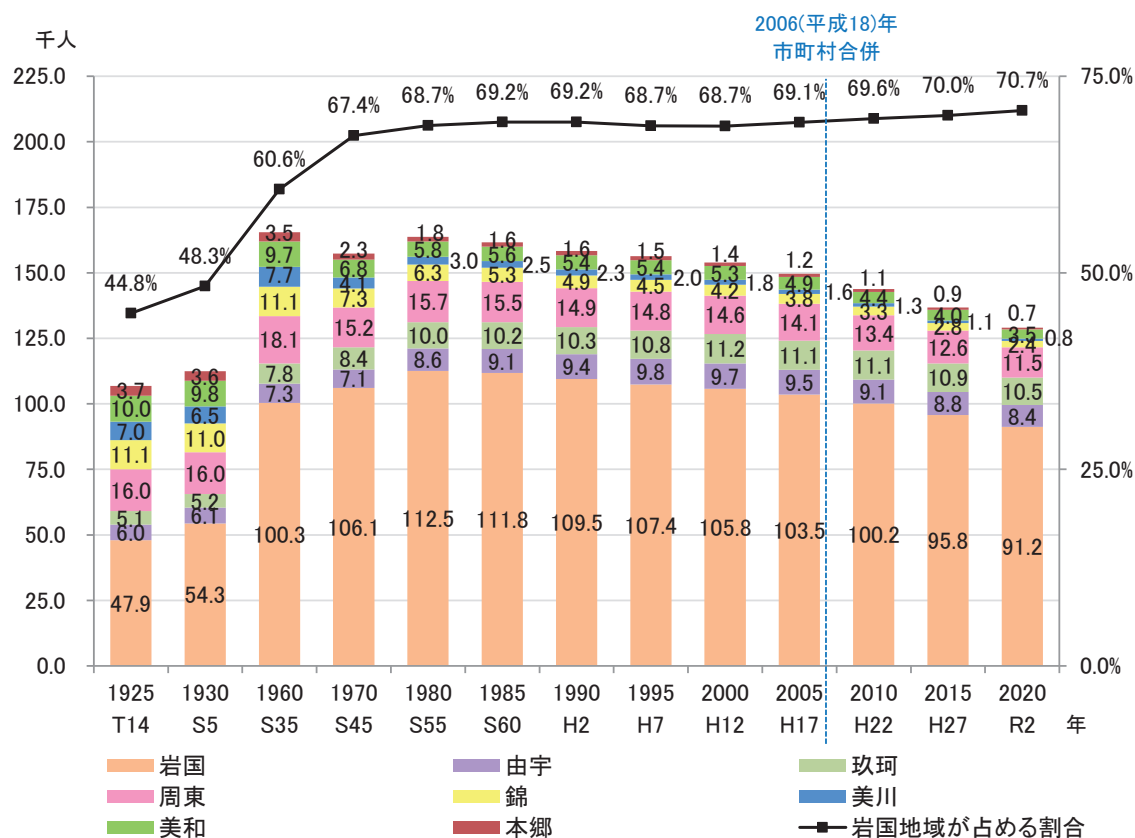
人口は岩国地域に集中する傾向にあり、2015（平成27）年以降は70%以上を占めていますが、その岩国地域においても1980（昭和55）年をピークに人口減少が進んでいます。

■ 岩国市の人口の推移



※実績値：総人口は年齢不詳を含んでいる。老年人口比率、年少人口比率は年齢不詳を除いて算出している。
 推計値：2020（令和2）年国勢調査を基にした推計値。3区分人口は年齢不詳を按分して算出している。
 出典：国勢調査、社人研「日本の地域別将来推計人口〔2023（令和5）年推計〕」

■ 地域別人口の推移と岩国地域が占める割合



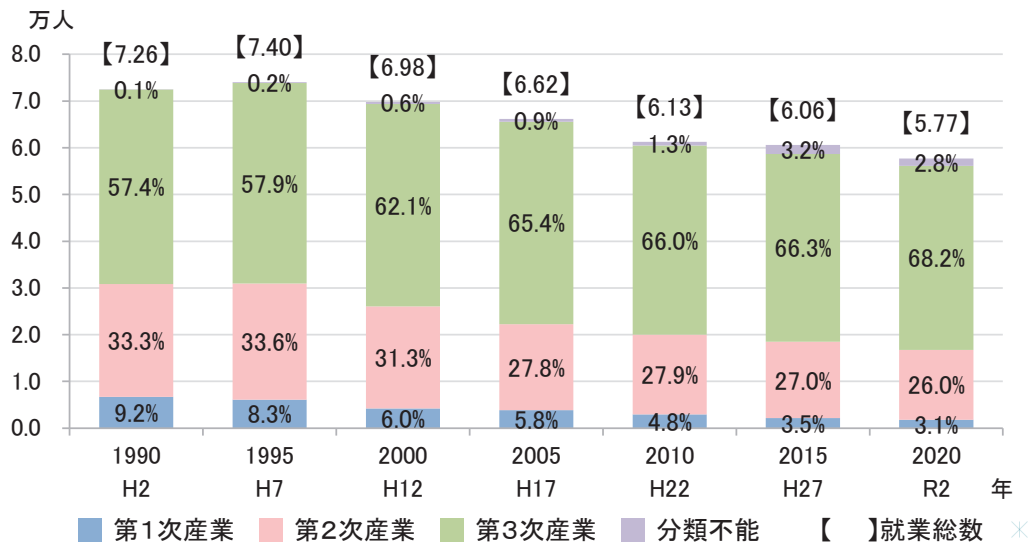
出典：国勢調査

(3) 産業

本市における就業人口は、1995（平成7）年の74,032人をピークに減少が続き、2020（令和2）年には、57,722人となっています。産業別の構成比では、第1次産業が3.1%、第2次産業が26.0%、第3次産業が68.2%、その他分類不能な産業が2.8%となっています。

産業のサービス化・ソフト化の高まりや観光産業の振興等により、第3次産業の構成比は2020（令和2）年には7割近くにまで上がる一方、第1次産業と第2次産業の就業者は縮小傾向が続き、特に第1次産業はこれまでで割合が最も低くなっています。

■ 産業別就業人口（従業地ベース）の推移

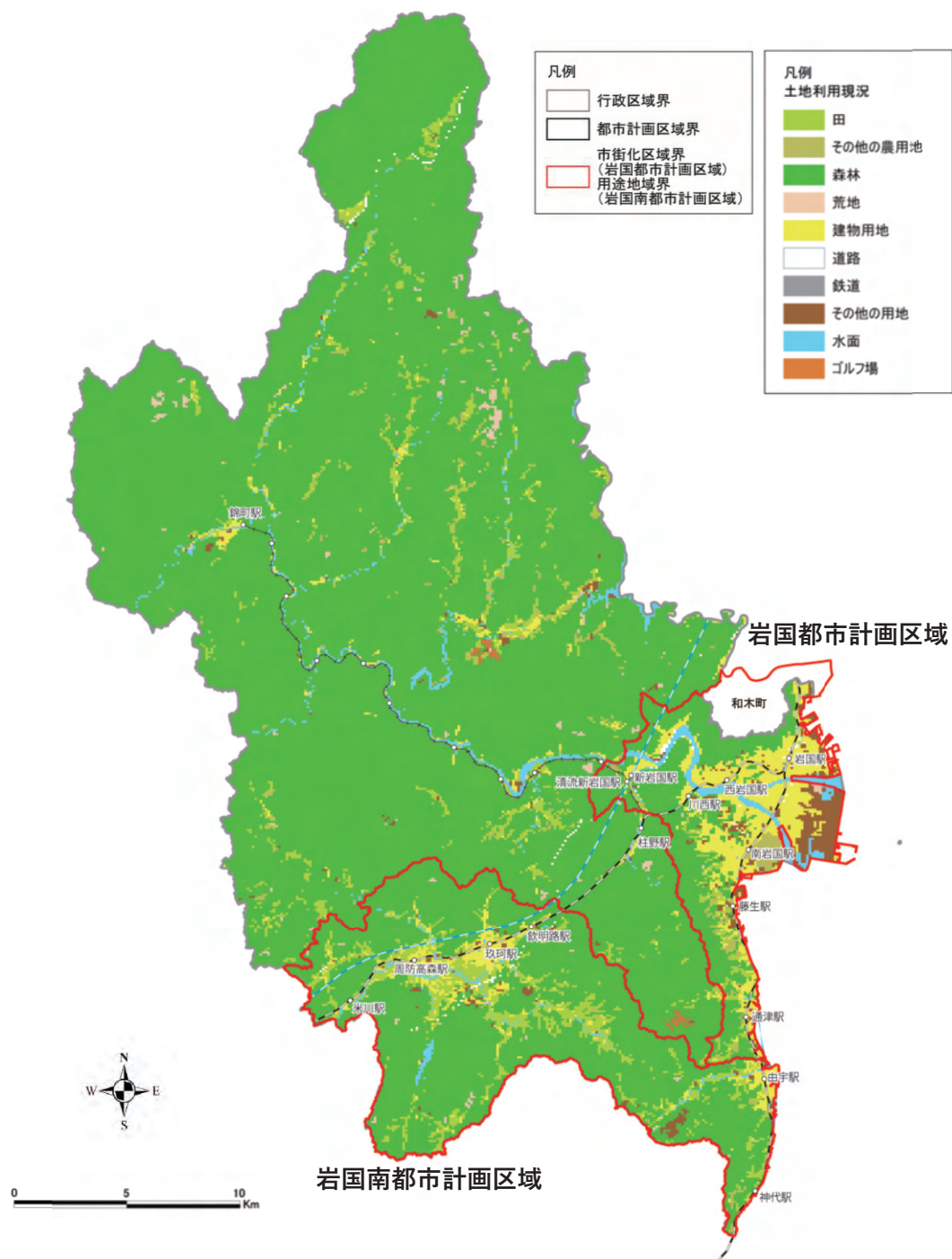


出典：国勢調査

(4) 土地利用

本市における土地利用は、市域の大部分を森林が占めており、特に都市計画区域外では、そのほとんどが森林または田畑となっています。建物用地等からなる市街地は、錦川や由宇川の下流域に広がる平野や、島田川沿岸の盆地を中心に形成されています。

■ 土地利用状況図



出典：国土数値情報〔2021（令和3）年度データ〕

2. 都市計画区域の概況

(1) 都市計画区域等の面積

岩国都市計画区域は、旧岩国市の一部の約7,903haを区域としています。区域区分を定めている「線引き」の都市計画区域で、約2,571haが市街化区域、約5,332haが市街化調整区域*に指定されています。

岩国南都市計画区域は、由宇町・玖珂町の全域、周東町の一部の約14,760haを区域としています。区域区分を定めていない「非線引き」の都市計画区域で、約703haに用途地域*が指定されています。

■ 都市計画区域等の指定状況

2025（令和7）年4月1日現在

区域名	区域区分	都市計画区域 (ha)	市街化区域 (ha)	市街化調整区域 (ha)	用途地域 (ha)	用途無指定地域 (ha)
岩国※	線引き	7,903	2,571	5,332	2,571	5,332
岩国南	非線引き	14,760	—	—	703	14,057

※岩国市分のみ（和木町分は含めず）

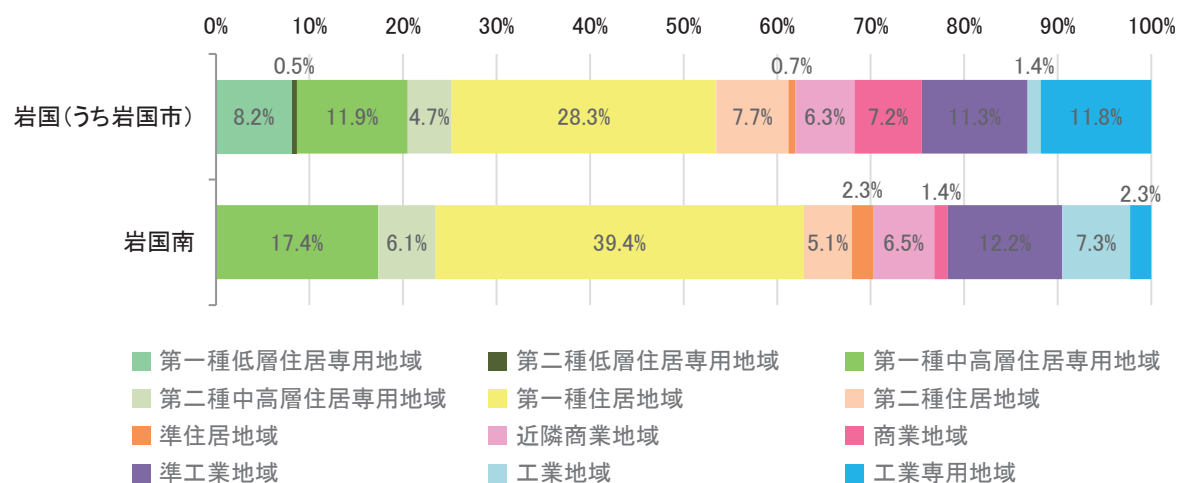
出典：岩国市資料

(2) 用途地域の指定状況

岩国都市計画区域では、臨海部や岩国インターチェンジ周辺の地域に工業系の用途地域*が指定されています。駅周辺や城下町地区に商業系の用途地域が指定されており、それ以外の地域には、住居系の用途地域が指定されており、住居系用途の割合は6割を超えています。

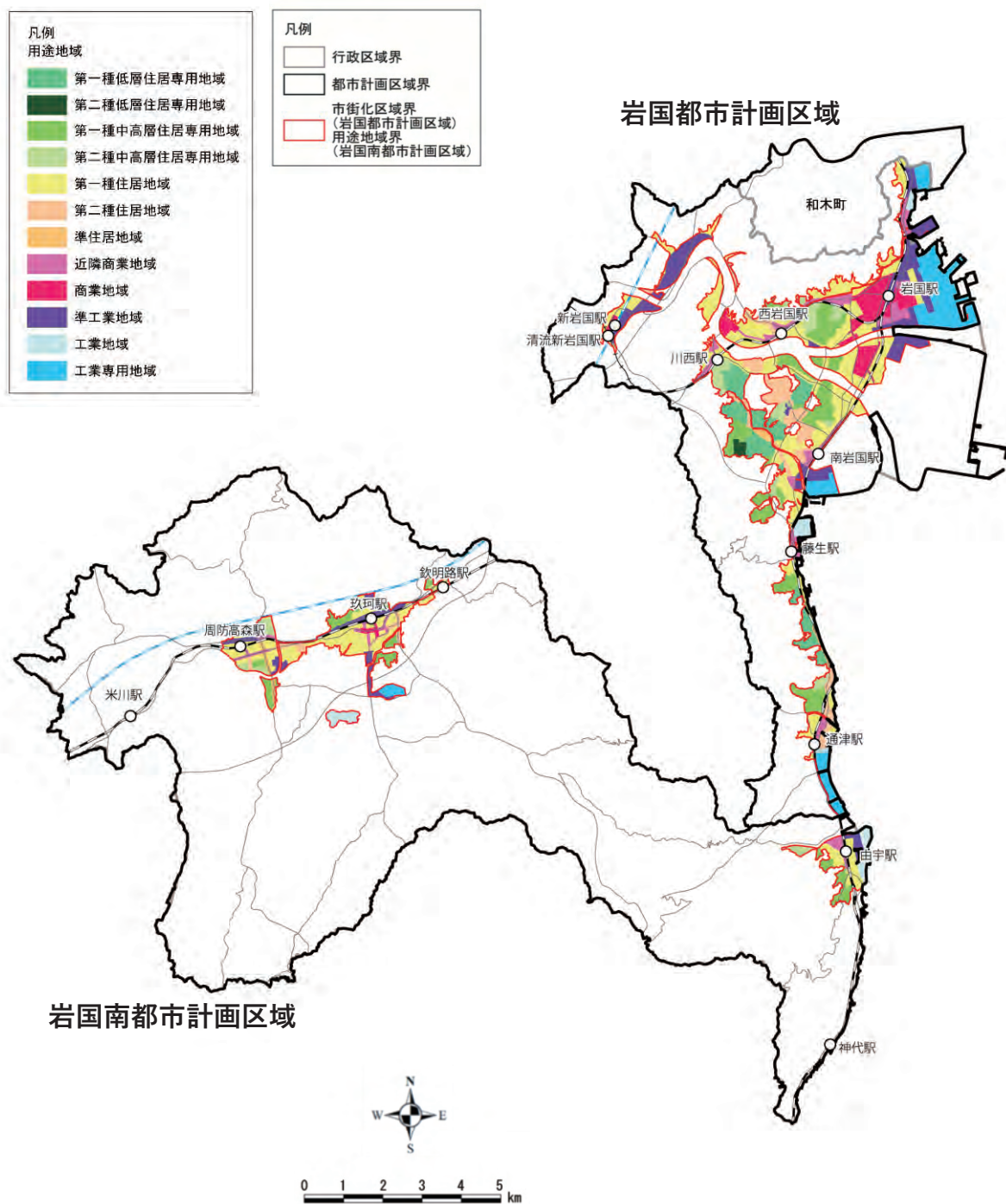
岩国南都市計画区域では、工業団地のほか、国道2号や県道柳井玖珂線沿いに工業系の用途地域が指定されています。また、駅周辺に商業系の用途地域が指定され、その周辺に住居系の用途地域が指定されており、住居系用途の割合は約7割を占めています。

■ 用途地域の指定状況



出典：岩国市資料

■ 用途地域の指定状況

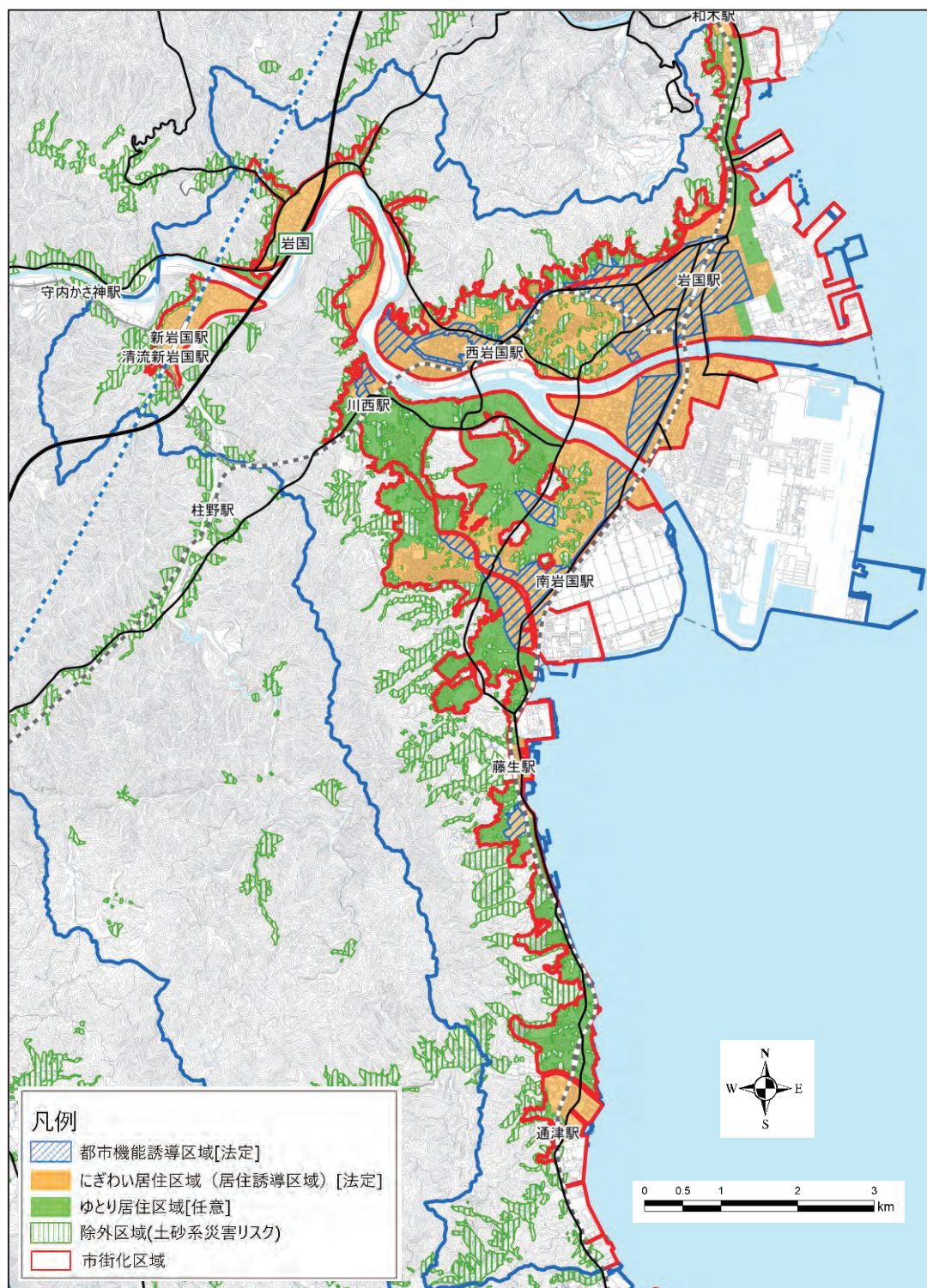


出典：岩国市資料

(3) 『岩国市立地適正化計画』誘導区域

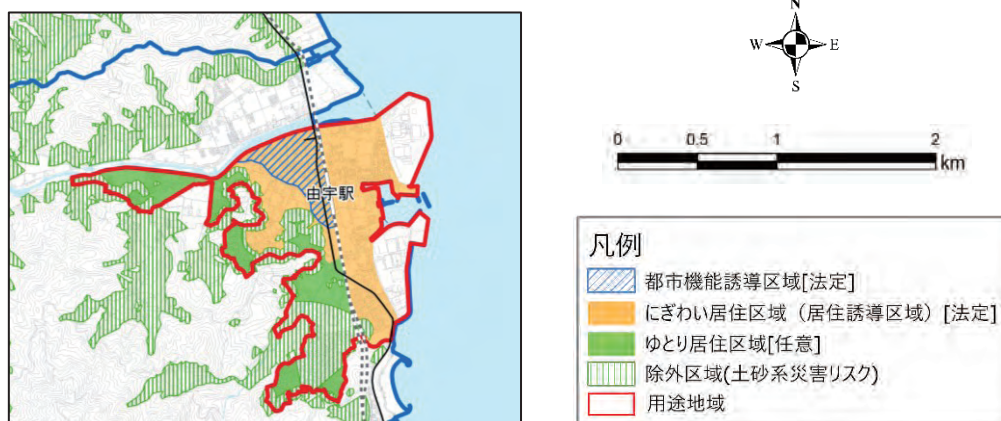
『岩国市立地適正化計画』では、市街化区域及び用途地域内に、にぎわい居住区域（居住誘導区域）、ゆとり居住区域（市任意設定）、都市機能誘導区域を設定し、区域内への居住や誘導施設の立地の誘導を進めています。

■ 誘導区域の区分図（岩国地域）

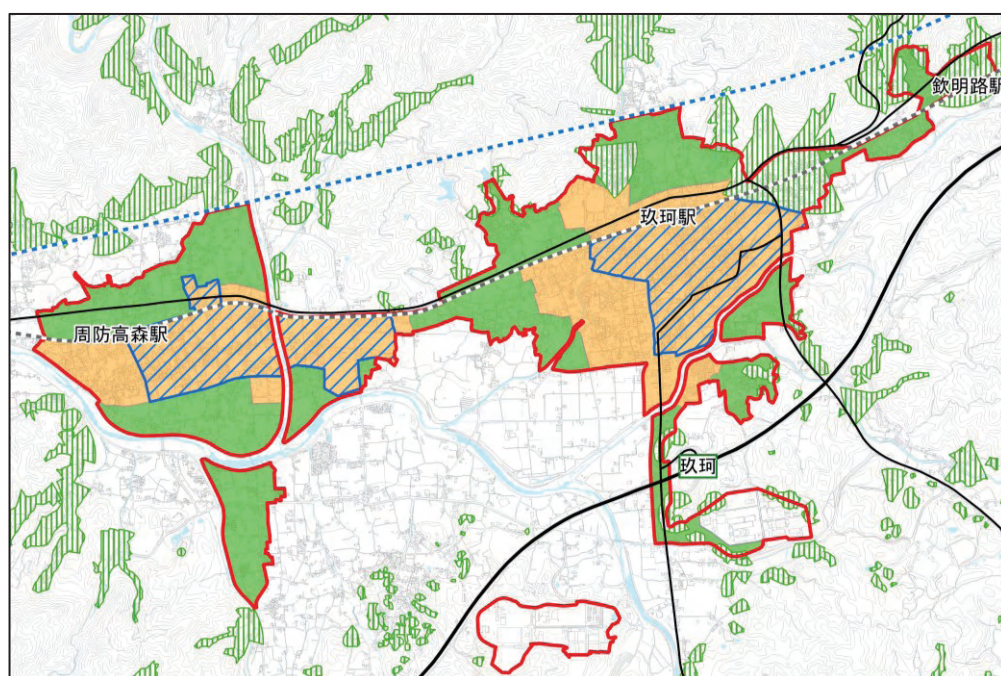


出典：岩国市立地適正化計画

■ 誘導区域の区分図（由宇地域）



■ 誘導区域の区分図（周東・玖珂地域）



■ 市街化区域（用途地域）に対する各誘導区域の指定状況

2025（令和7）年3月31日現在

都市計画区域名	市街化区域 （用途地域）	にぎわい居住区域 （居住誘導区域）		都市機能誘導区域	
	面積(ha)	面積(ha)	区域比率 (%)	面積(ha)	区域比率 (%)
岩国（線引き）	2,571	1,185	46.1	431	16.8
岩国南（非線引き）	703	301	42.8	150	21.3
由宇	170	73	42.9	17	10.0
周東・玖珂	533	228	42.8	133	25.0
合 計	3,274	1,486	45.4	581	17.8

※各誘導区域はGIS（地図情報システム）による図上計測面積

出典：岩国市立地適正化計画

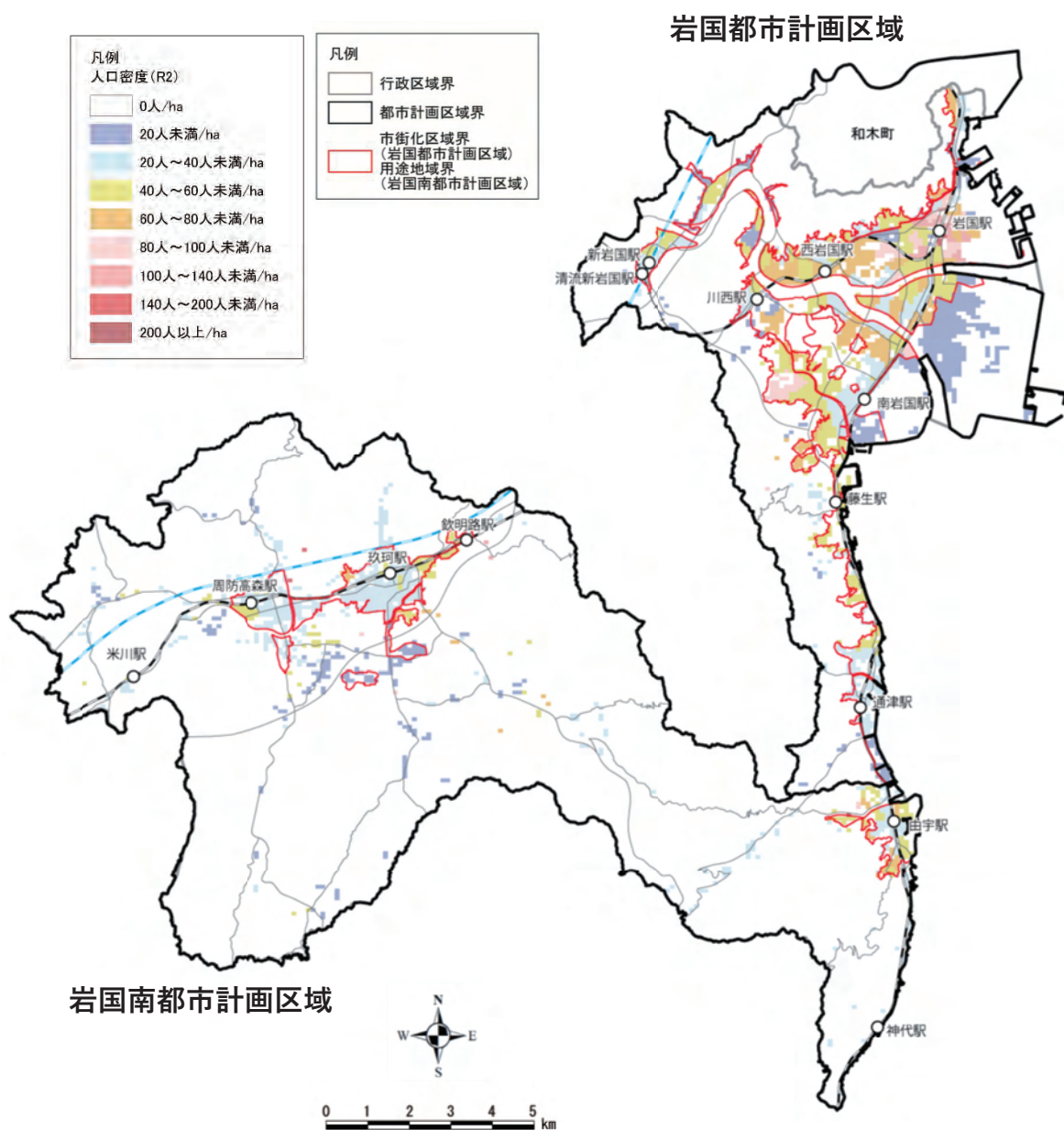
(4) 人口密度

①人口密度

2020（令和2）年の人口密度をみると、岩国都市計画区域の市街化区域内では、市街地の基準となる40人/haを越えているエリアが多くなっていますが、南岩国駅周辺では40人/haを下回るエリアも見られます。

岩国南都市計画区域においては、由宇地域及び周東・玖珂地域ともに地域の縁辺部で40人/haを上回っている一方、駅周辺の方が相対的に低密度となっています。

■ 2020（令和2）年人口密度（都市計画区域）



出典：国勢調査、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」

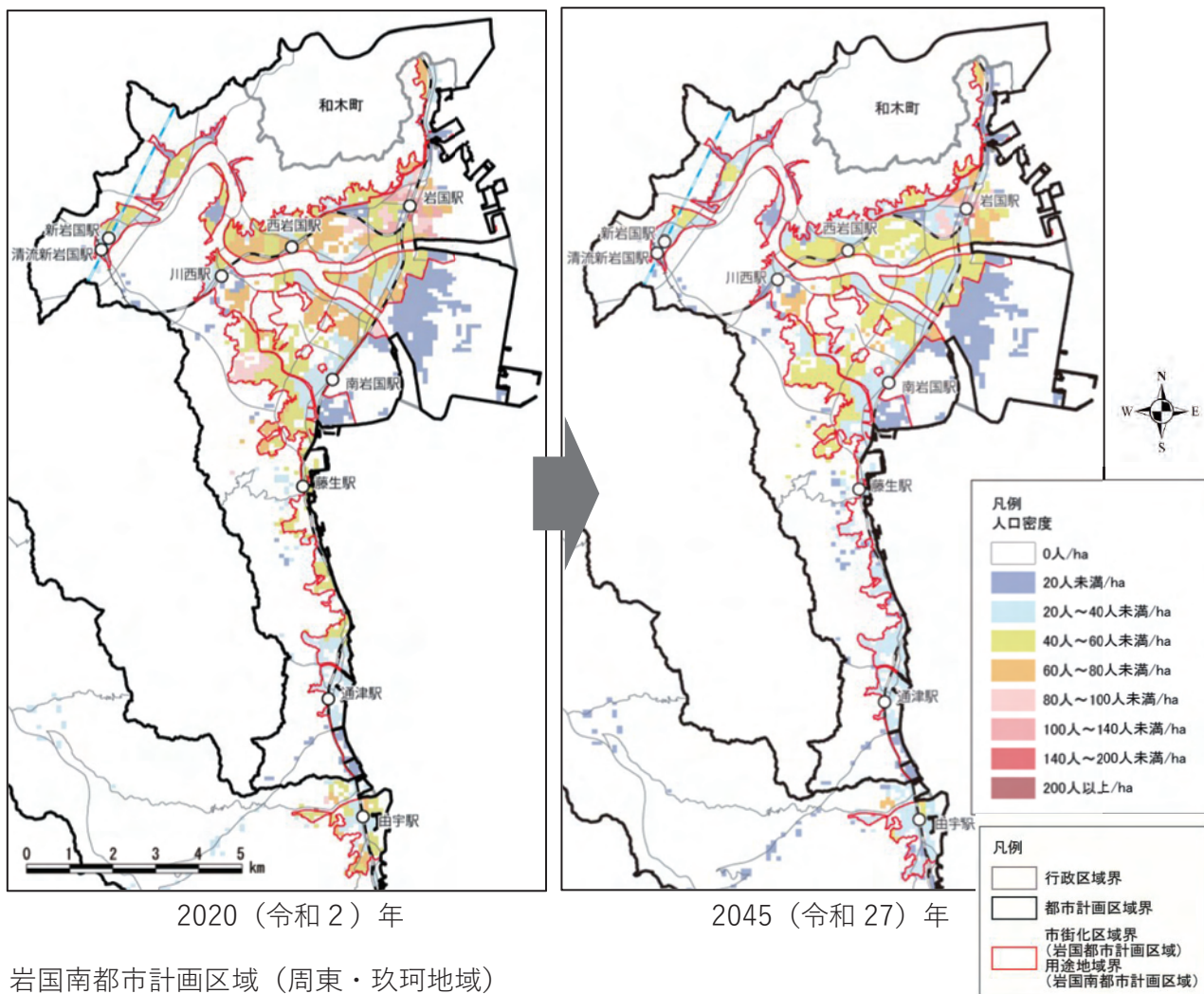
※国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」を用いた計算結果を加工して作成

②人口密度推計

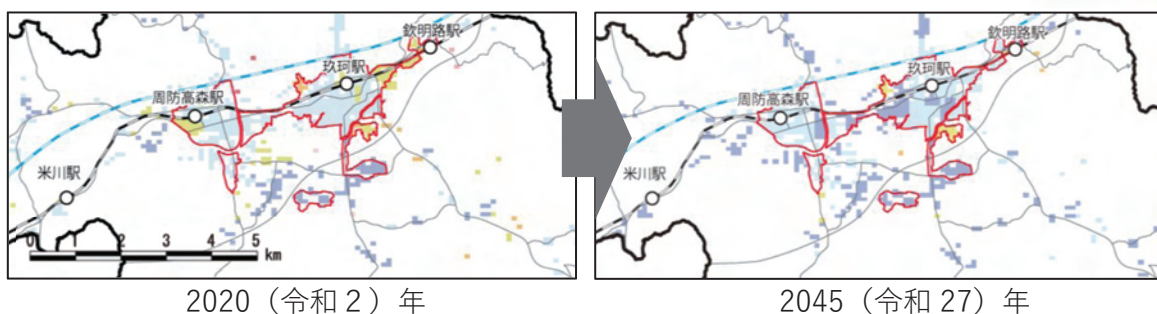
人口減少とともに人口密度も市全域で減少すると推計されており、2045（令和27）年に、市街地の基準となる40人/ha以上を維持しているのは、岩国地域では岩国駅周辺や錦川沿いの市街地、南岩国地区のほか、由宇地域、周東・玖珂地域の一部に限られています。

■ 人口密度の推移（推計）

岩国都市計画区域（岩国地域）、岩国南都市計画区域（由宇地域）



岩国南都市計画区域（周東・玖珂地域）



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」
国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」

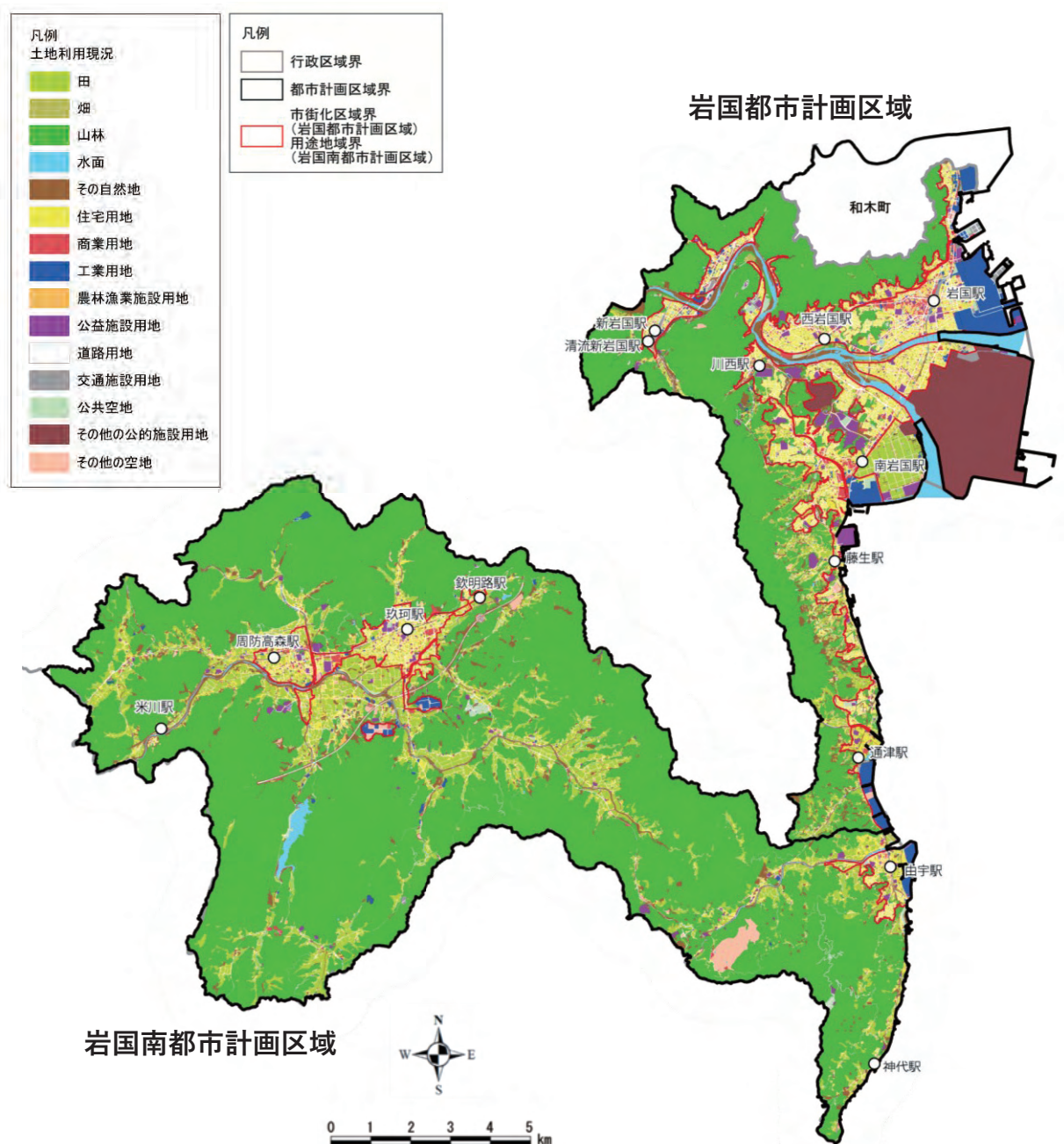
※国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」を用いた計算結果を加工して作成

(5) 土地利用

岩国都市計画区域では、瀬戸内海沿いに工業用地が広がるほか、岩国駅周辺の市街地中心部や南岩国駅周辺には商業用地が集積し、尾津の干拓地にはまとまった農地が分布しています。

岩国南都市計画区域のうち周東・玖珂地域では、用途地域内を中心に住宅用地が広がり、その周辺には、まとまった農地が分布しています。また、由宇地域では瀬戸内海沿いにまとまった工業用地が分布し、その背後に住宅用地が広がるとともに、由宇川沿いにはまとまった農地が見られます。

■ 土地利用状況（都市計画区域）



出典：2022（令和4）年度都市計画基礎調査

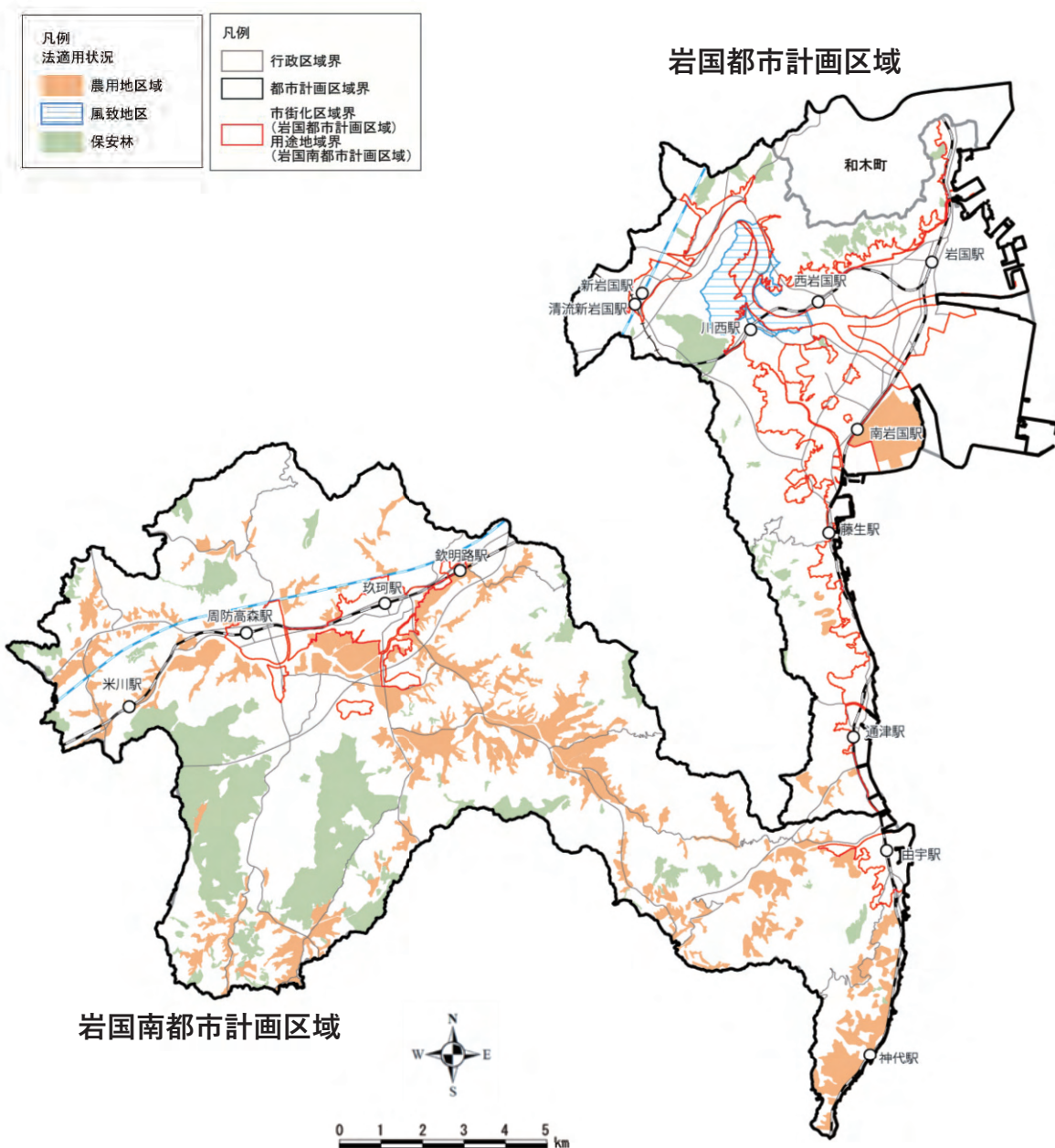
(6) 法適用状況

【保全系】

都市計画区域内の市街化区域や用途地域を除いた沿岸部や河川沿いについては、農業振興地域*の農用地区域*に指定し、農地の保全を図っています。特に、非線引き都市計画区域である由宇地域や周東・玖珂地域では、農用地区域が広く分布しています。

また、山地部では保安林*を指定し、森林の保全を図っています。

■ 法適用状況



出典：2022（令和4）年度都市計画基礎調査

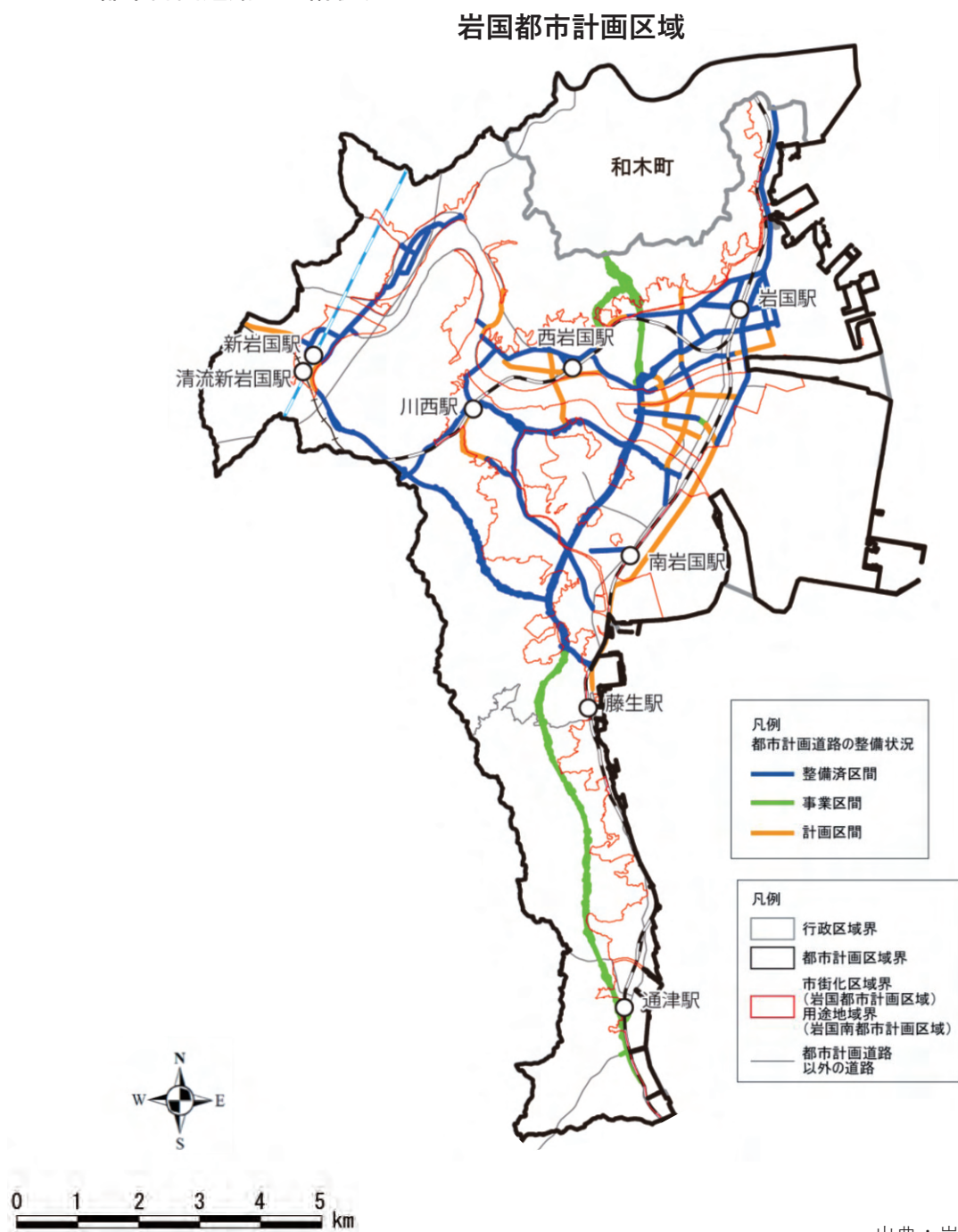
(7) 都市施設

①都市計画道路

都市計画道路は、岩国都市計画区域の市街化区域内を中心に都市計画決定されており、現在、幹線街路41路線、自動車専用道路1路線、特殊街路1路線の計43路線が都市計画決定されています。総延長84,660mのうち、改良済延長は44,900mで、改良率は53.0%となっています〔2025（令和7）年3月31日現在〕。

なお、岩国南都市計画区域においては、都市計画道路は都市計画決定されていません。

■ 都市計画道路の整備状況



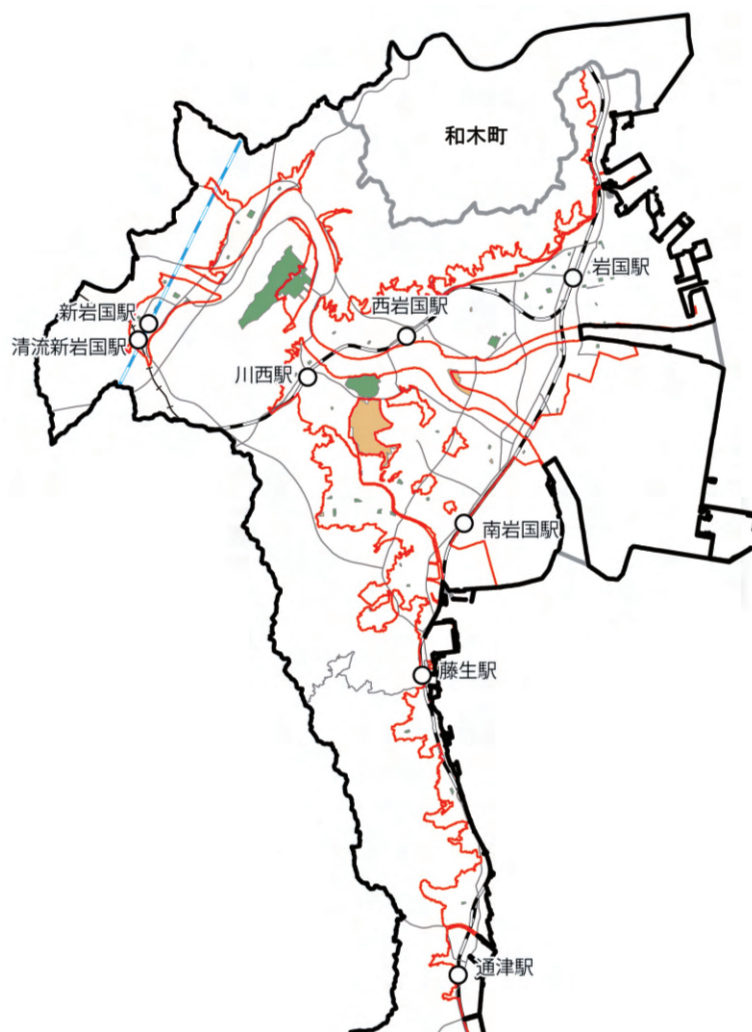
出典：岩国市資料

②都市計画公園

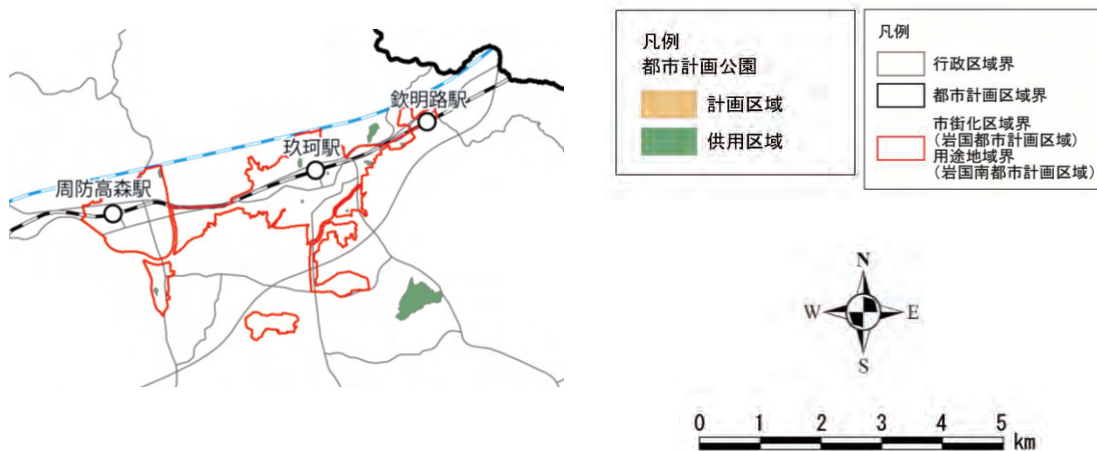
岩国都市計画区域においては、72公園が都市計画決定されており、このうち69公園、約91haが供用開始されています。

岩国南都市計画区域においては、12公園（墓園を含む）が都市計画決定されており、約30haが供用開始されています〔2025（令和7）年3月31日現在〕。

■ 都市計画公園の整備状況（岩国）



■ 都市計画公園の整備状況（岩国南）

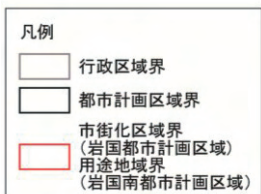
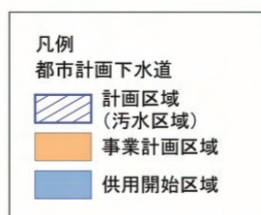


出典：岩国市資料

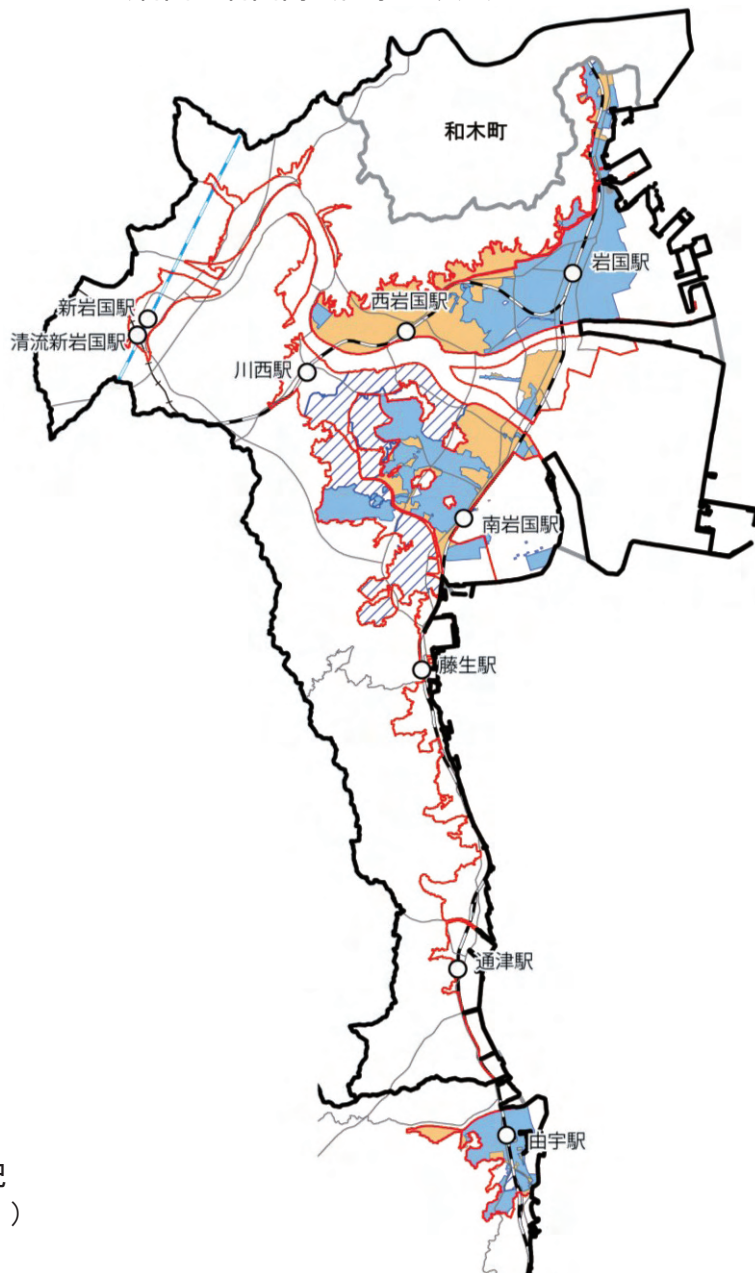
③都市計画下水道

岩国都市計画区域における公共下水道*の全体計画区域面積が1687.7haとなっており、そのうち約680ha（40.3%）が整備済となっています。

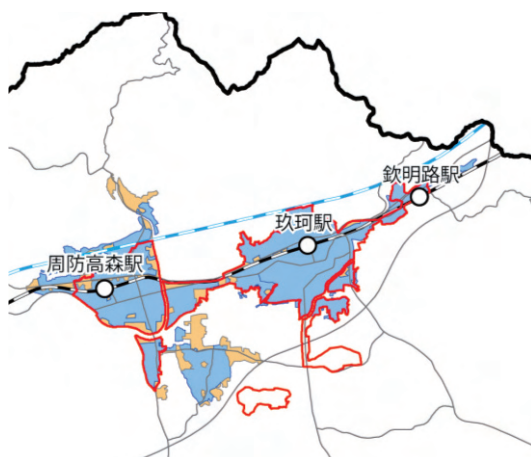
岩国南都市計画区域における流域下水道*及び公共下水道の全体計画面積は783.3haとなっており、そのうち、約646h（82.5%）が整備済となっています〔2025（令和7）年3月31日現在〕。



■ 都市計画下水道の整備状況 （岩国・岩国南（由宇地域））



■ 都市計画下水道の整備状況 （岩国南（周東・玖珂地域））



出典：岩国市資料

(8) 市街地整備

岩国都市計画区域では、土地区画整理事業*の18地区が施行済、1地区が未施行、市街地再開発事業*の1地区が施行中となっています。川下地区と南岩国駅前地区の土地区画整理事業は都市計画の廃止が行われ、新たなまちづくりが進められています。

未施行地区である西岩国駅前地区では、にしみ地区まちづくり協議会を設立し、土地区画整理事業にとらわれない、新たなまちづくりについて検討を行っています。

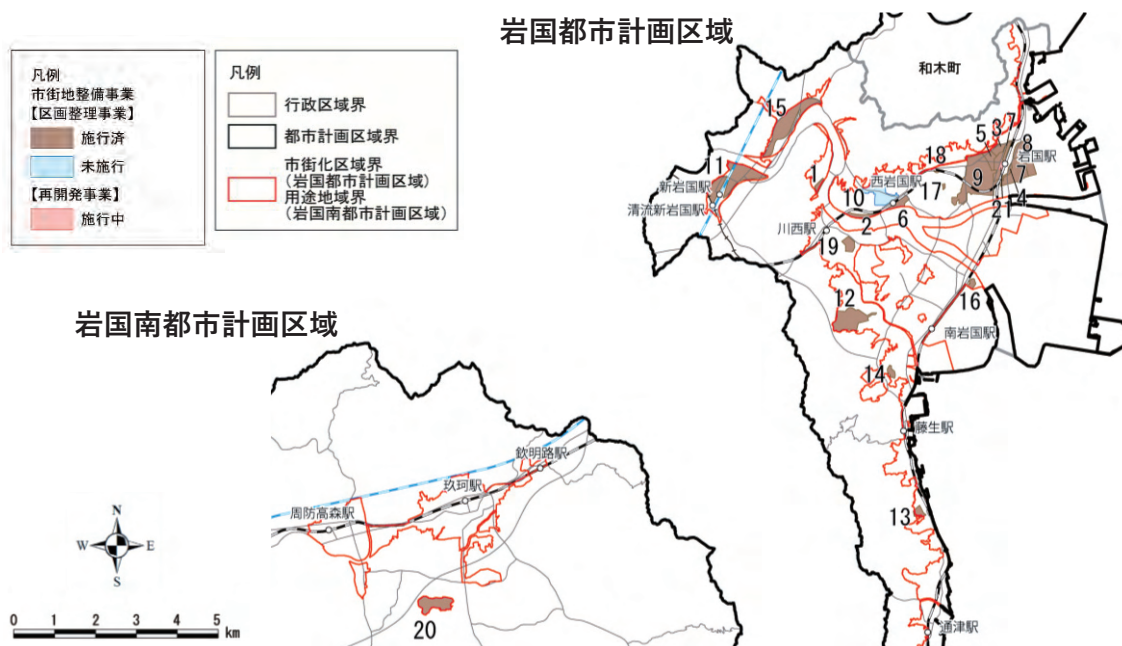
また、岩国駅前では、岩国駅前南地区第一種市街地再開発事業が施行中です。

岩国南都市計画区域では、土地区画整理事業の1地区が施行済となっています。

■ 市街地整備状況

2025（令和7）年4月1日現在

都市計画区域	図面対象番号	地区名	事業主体	事業面積(ha)	施行状況	備考
土地区画整理事業						
岩国	1	旭町	組合	2.3	施行済(S13～S14)	
	2	錦見	〃	5.4	施行済(S14～S17)	
	3	麻里布第一	〃	12.2	施行済(S15～S25)	
	4	五本松	〃	0.6	施行済(S15～S25)	
	5	麻里布第二	〃	8.4	施行済(S16～S25)	
	6	千歳町	〃	6.9	施行済(S16～S25)	
	7	岩国戦災復興	山口県	46.2	施行済(S21～S26)	都決日S21.10.28
	8	麻里布五本松	岩国市	25.3	施行済(S29～S45)	都決日S29.06.16
	9	岩国駅前	〃	72.7	施行済(S29～S52)	都決日S29.06.16
	10	西岩国駅前	-	23.1	未施行	都決日S29.06.16
	11	御庄	組合	51.9	施行済(S48～S58)	都決日S47.09.26
	12	梅が丘	個人(共同)	38.7	施行済(S49～S52)	
	13	青木	組合	5.4	施行済(S52～S54)	
	14	三澄ヶ丘	個人(1人)	4.5	施行済(S55～S56)	
	15	藤河	組合	46.0	施行済(S62～H14)	都決日S62.09.01
	16	門前	個人(共同)	2.8	施行済(H6～H8)	
	17	山手室の木	個人(共同)	0.5	施行済(H6～H8)	
	18	室の木町四丁目	個人(1人)	0.6	施行済(H9～H10)	
	19	平田一丁目	組合	8.6	施行済(H16～H20)	
岩国南	20	周東町久宗	組合	37.1	施行済(H8～H23)	
市街地再開発事業						
岩国	21	岩国駅前南地区	組合	0.9	施行中(R3～)	都決日R4.03.18



出典：岩国市資料

(9) 公共交通

鉄道は、山陽新幹線新岩国駅のほか、岩国駅を中心として、沿岸部にはＪＲ山陽本線、内陸部にはＪＲ岩徳線、錦・美川地域には錦川鉄道（株）による錦川清流線が運行されています。乗降客数は岩国駅が最も多く、次いで南岩国駅が多くなっています。各駅の乗車人員数の推移を見ると、増減の程度に差はあるものの、どの駅においても減少傾向にあります。

バスは、主に岩国都市計画区域内では、いわくにバス（株）による路線バスが運行されており、それ以外の地域では、防長交通、岩国市生活交通バス等が運行されています。また、乗合タクシー「よべるん」は、小瀬地区と北河内地区では2022（令和4）年度から、南河内地区では2023（令和5）年度から運行されています。バスの運行本数は、岩国地域の市街地内で多くなっています。

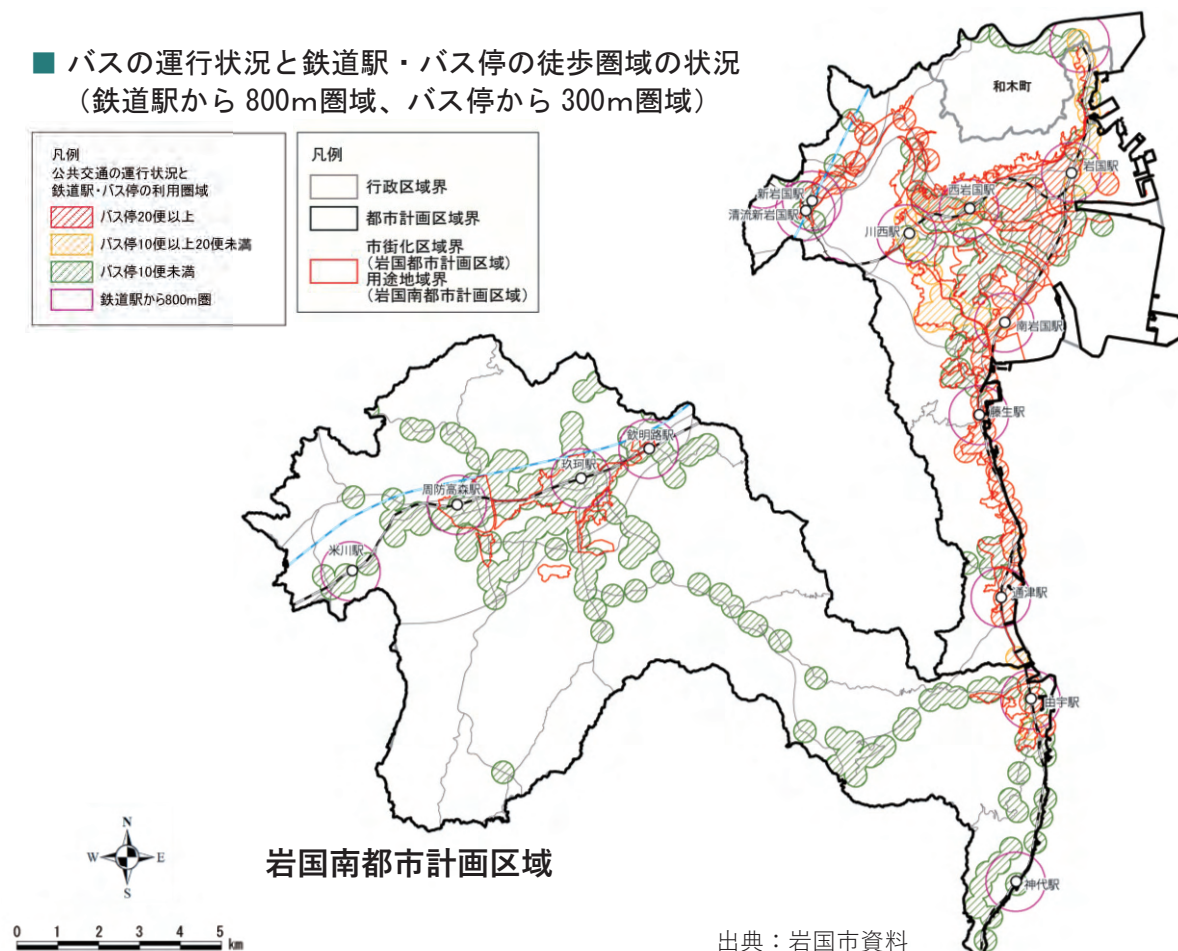
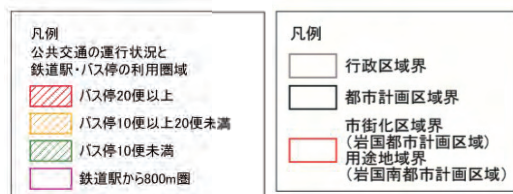
さらに、バス停から徒歩300m圏域を見ると、市街地のほとんどがカバーされています。

■ 鉄道駅年間利用者数

路線	駅名	2015 (平成27)年	2020 (令和2)年	2023 (令和5)年	H27-R5 増減率
山陽 本線	岩国駅	2,173,188	1,562,667	1,843,021	▲ 15.2
	南岩国駅	665,164	538,829	504,620	▲ 24.1
	藤生駅	214,460	166,842	160,573	▲ 25.1
	通津駅	217,677	169,126	147,969	▲ 32.0
	由宇駅	322,379	240,403	238,995	▲ 25.9
	神代駅	26,090	18,662	15,480	▲ 40.7
岩徳線	西岩国駅	132,705	127,231	122,659	▲ 7.6
	川西駅	197,595	154,970	160,306	▲ 18.9
	柱野駅	13,010	10,016	7,351	▲ 43.5
	欽明路駅	20,836	9,505	13,743	▲ 34.0
	玖珂駅	164,040	115,954	107,218	▲ 34.6
	周防高森駅	169,198	143,217	122,944	▲ 27.3
新幹線	米川駅	8,541	3,620	5,341	▲ 37.5
	新岩国駅	349,177	183,559	344,923	▲ 1.2
錦川清流線		198,415	136,574	130,643	▲ 34.2

出典：統計いわくに

■ バスの運行状況と鉄道駅・バス停の徒歩圏域の状況 (鉄道駅から800m圏域、バス停から300m圏域)



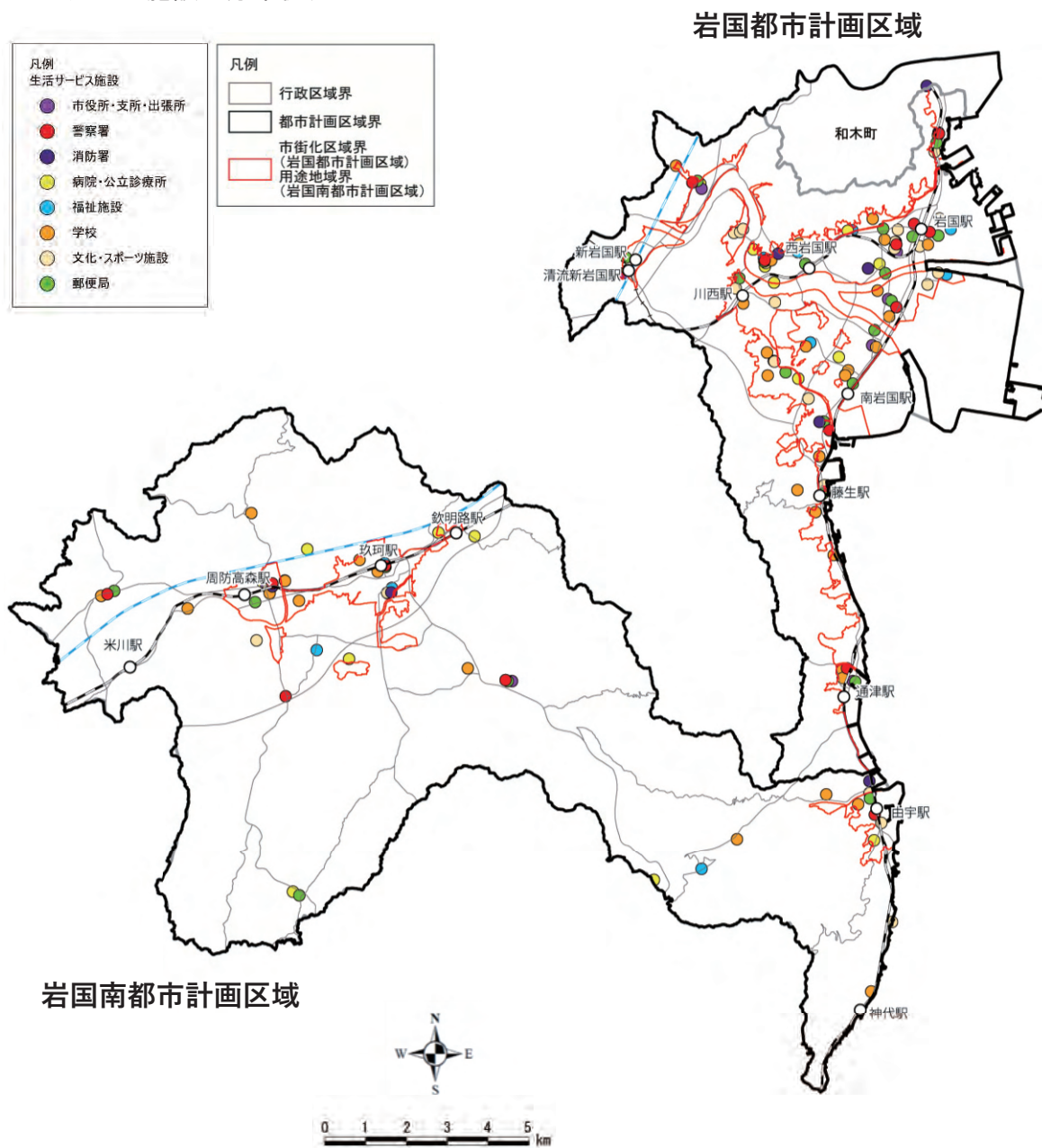
出典：岩国市資料

(10) 公共公益施設

岩国都市計画区域内における公共公益施設については、岩国駅周辺の市街地中心部に特に集積しているほか、岩国地区、川下地区、南岩国地区、通津駅周辺等にまとまって分布しています。

また、岩国南都市計画区域においては、由宇駅周辺、玖珂駅周辺、周防高森駅周辺の既成市街地内に集積しています。

公共公益施設の分布状況



出典：いわくにマップ等

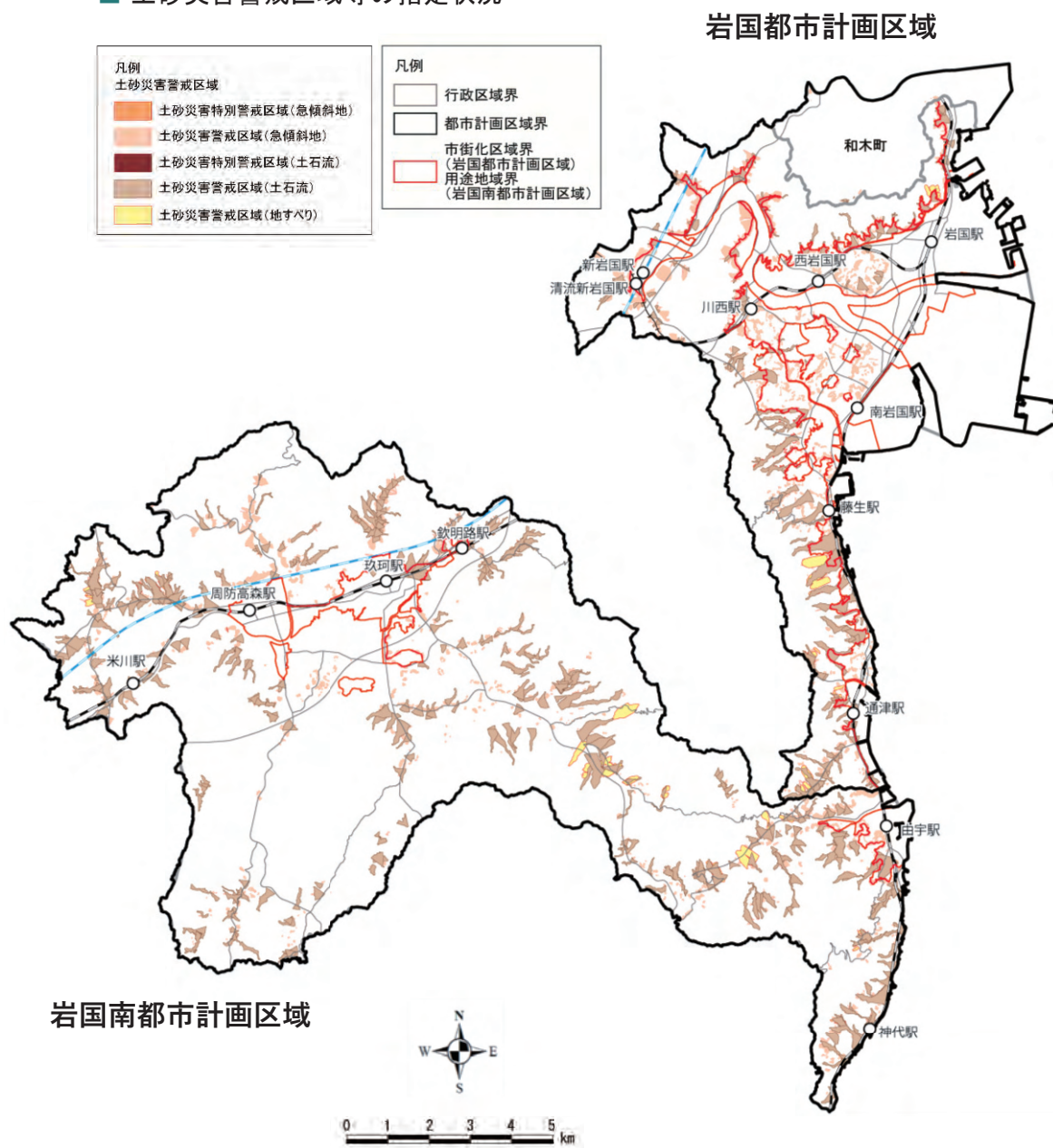
(11) 災害リスクの状況

①土砂災害警戒区域*等

本市では、2011（平成23）年に山口県による土砂災害警戒区域が指定され、2016（平成28）年には土砂災害特別警戒区域*が指定されています。

本市においては、山地に囲まれた地形的特性により、多くの地区で土砂災害警戒区域等が指定されており、特に岩国都市計画区域内では、市街化区域内においても指定されています。

■ 土砂災害警戒区域等の指定状況



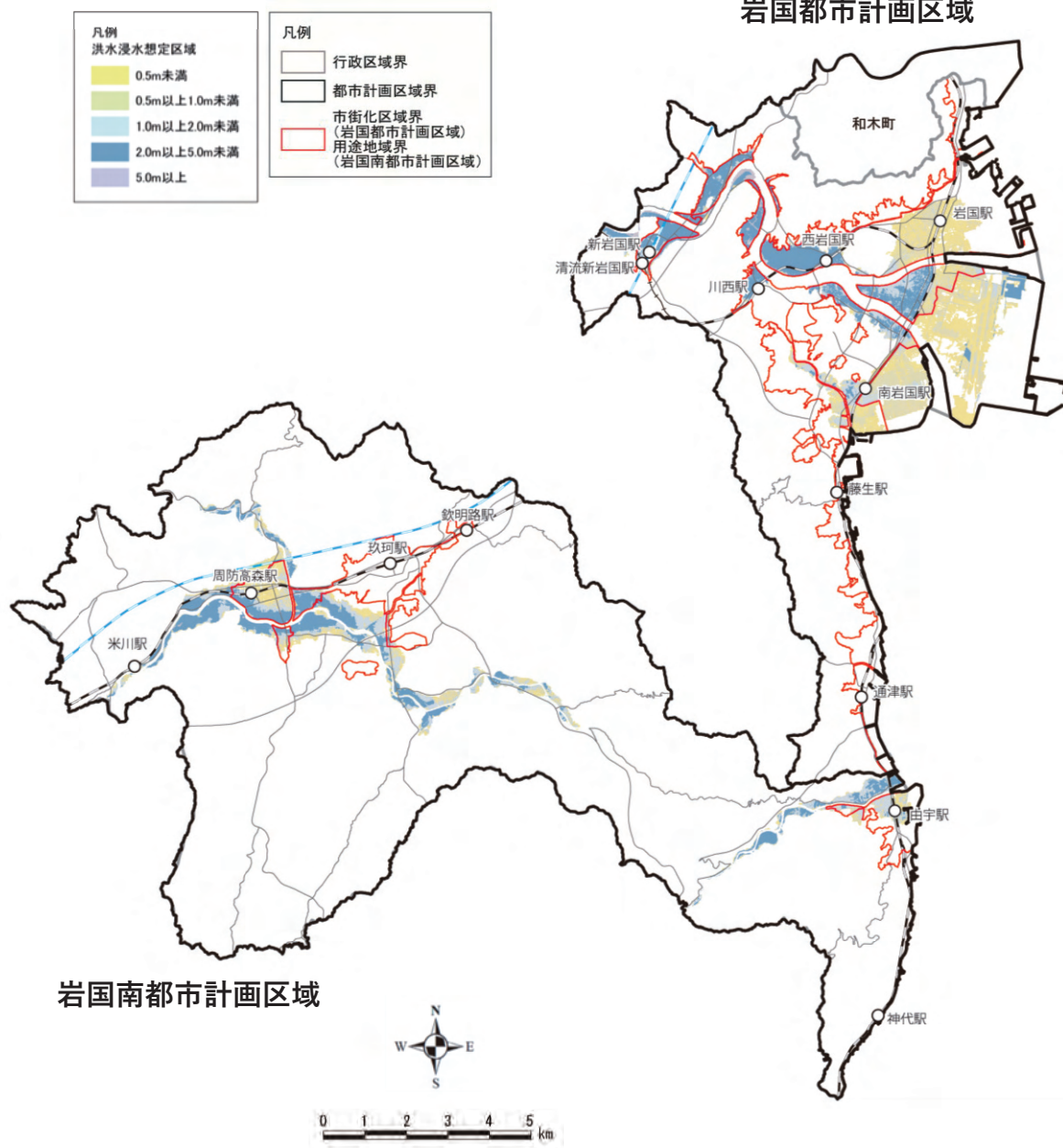
出典：岩国市ハザードマップ*

②洪水浸水想定区域*

洪水浸水想定区域は、岩国都市計画区域では、錦川沿いの広範囲で2.0m以上の浸水が想定されています。

また、岩国南都市計画区域では、由宇地域の由宇川沿いや周東・玖珂地域の島田川沿いで、2.0m以上の浸水が想定されています。

■ 洪水浸水想定区域の指定状況



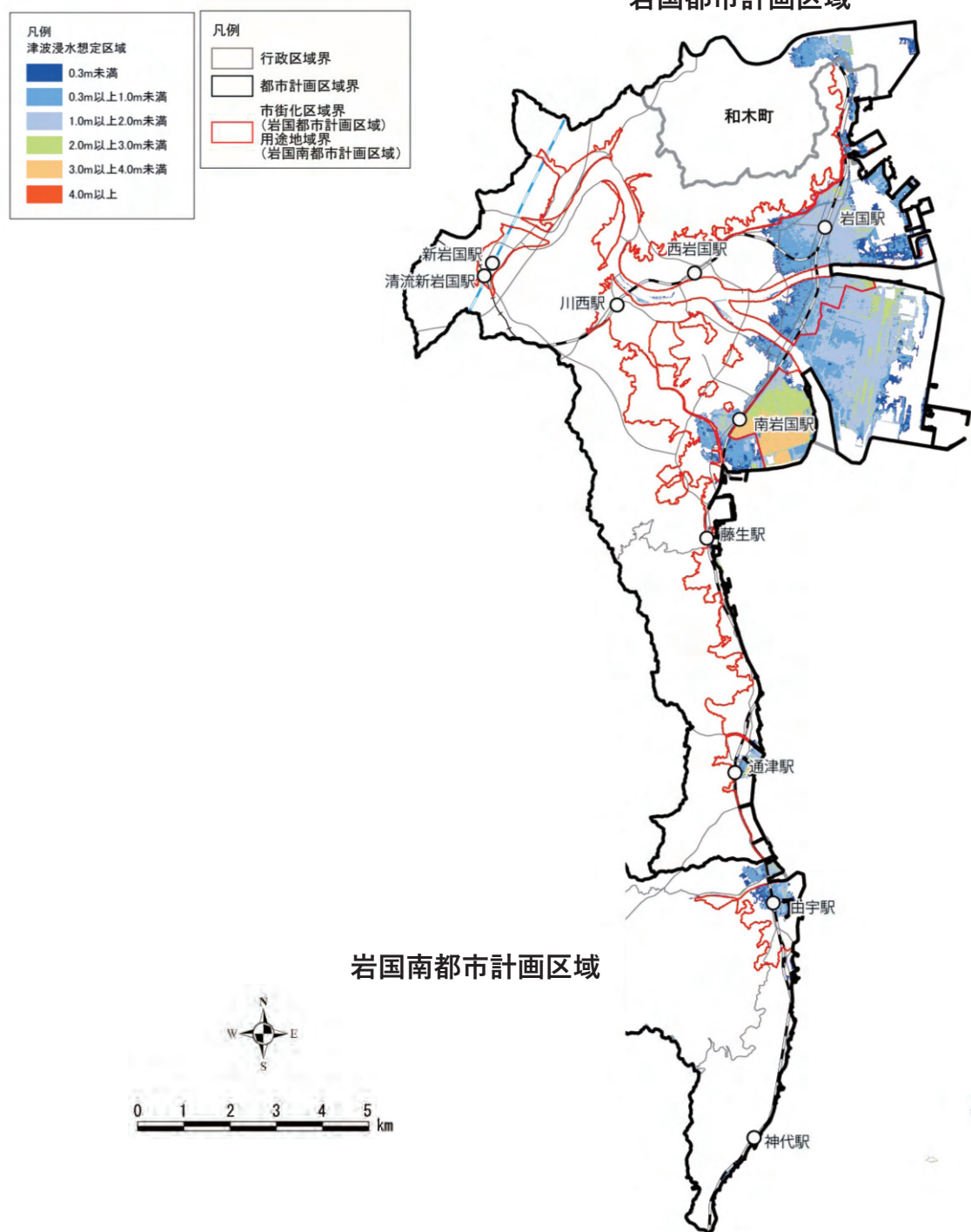
出典：岩国市ハザードマップ

③津波浸水想定区域*

津波浸水想定区域は瀬戸内海沿いの主に山陽本線より海側で浸水が想定されており、岩国都市計画区域では岩国駅周辺で2.0m未満の浸水が想定されています。

また、岩国南都市計画区域では、由宇駅周辺で2.0m未満の浸水が想定されています。

■ 津波浸水想定区域の指定状況



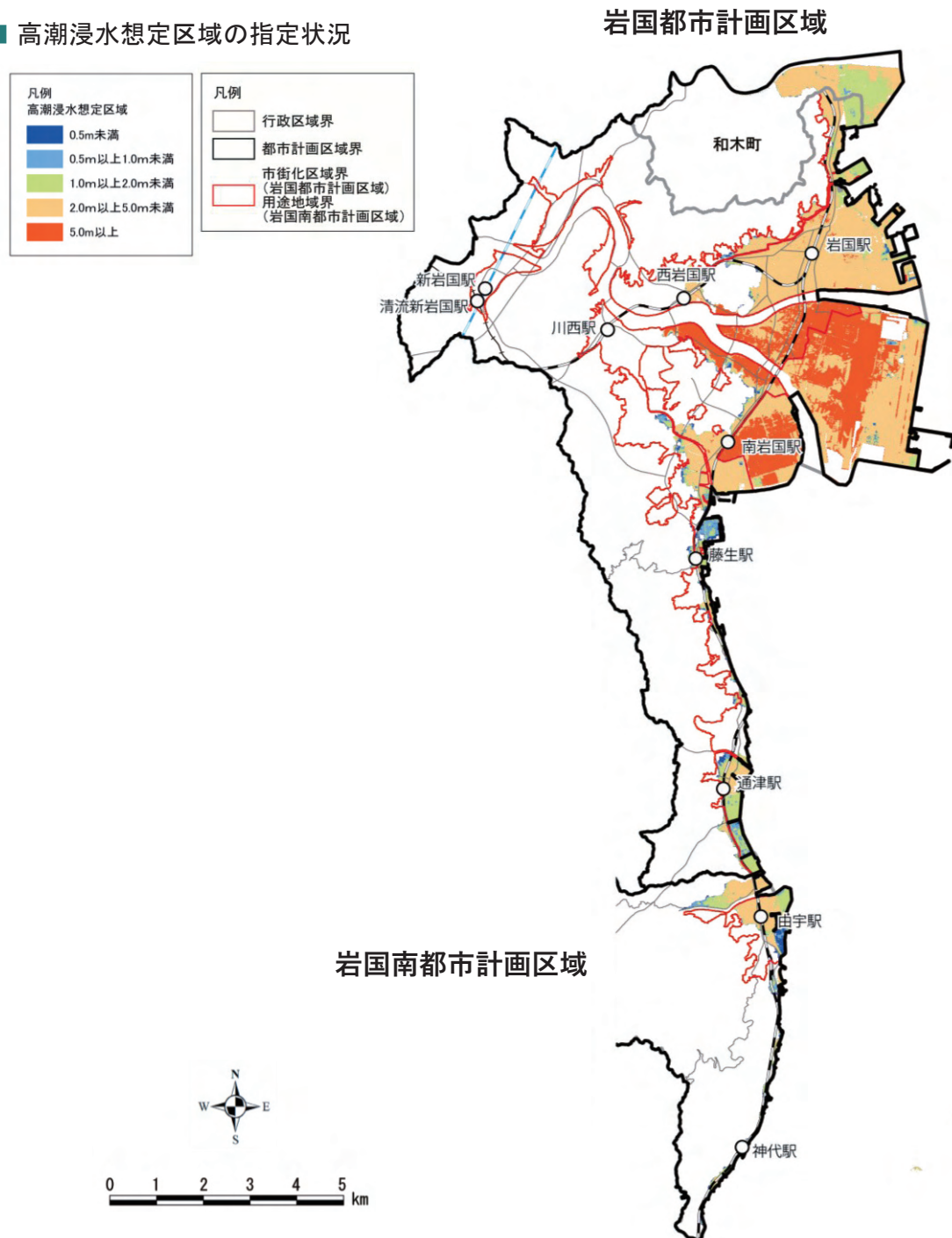
出典：岩国市ハザードマップ

④高潮浸水想定区域*

津波浸水想定区域と同様に、瀬戸内海沿いの主に山陽本線より海側で浸水が想定されており、岩国都市計画区域では麻里布地区や今津地区、川下地区、南岩国地区、通津地区の市街地の大部分で2.0m以上5.0m未満の浸水が想定されており、一部では5.0m以上の浸水も想定されています。

また、岩国南都市計画区域では、由宇駅周辺で2.0m以上5.0m未満の浸水が想定されています。

■ 高潮浸水想定区域の指定状況



出典：岩国市ハザードマップ

3. 市民の意向

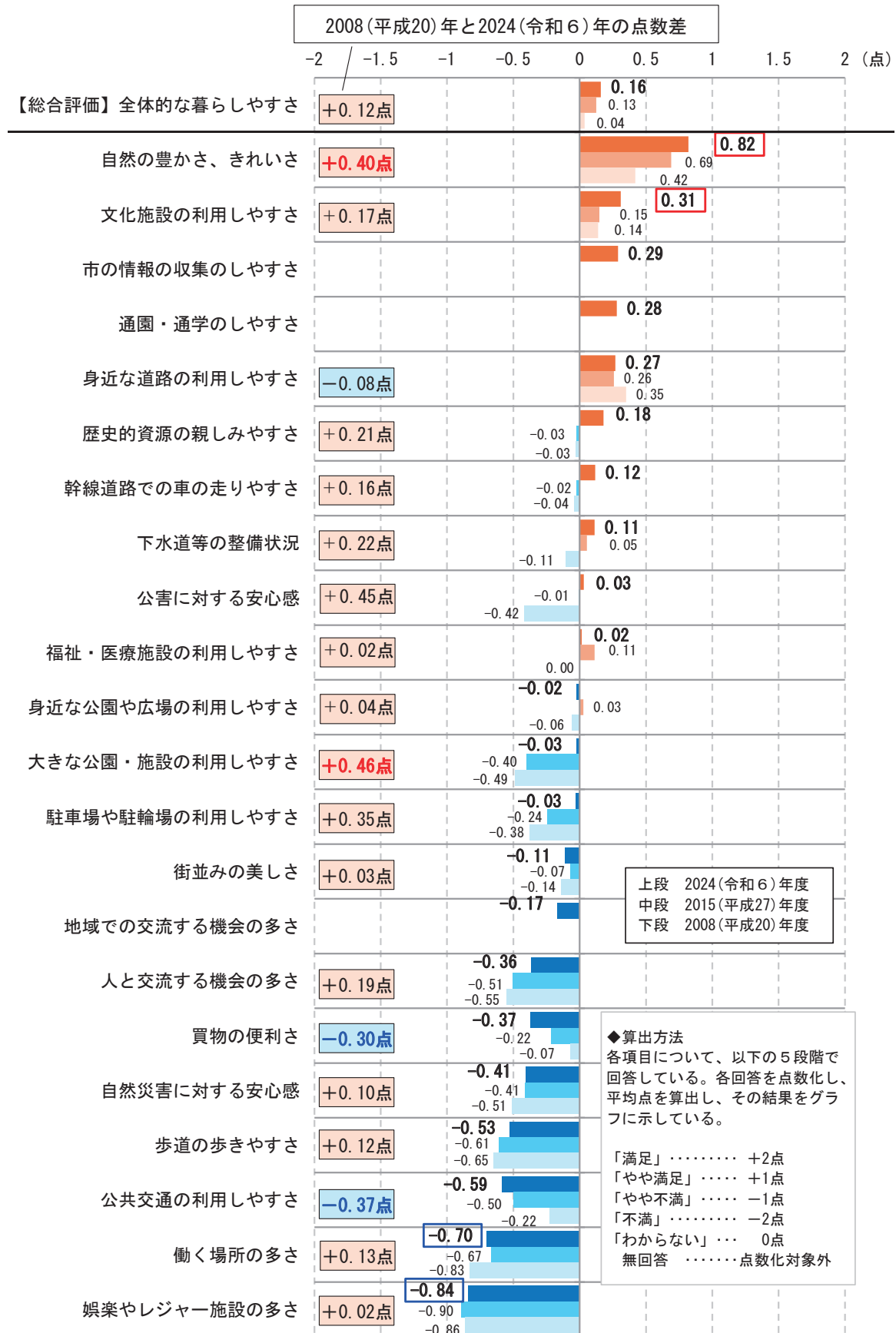
(1) 市民アンケート

2024（令和6）年10月に、まちづくりに関する市民の意向を幅広く把握し、計画に反映するため、アンケート調査を実施しました。主な調査結果は、以下のとおりです。

なお、アンケート票は参考資料（P172～）に掲載しています。

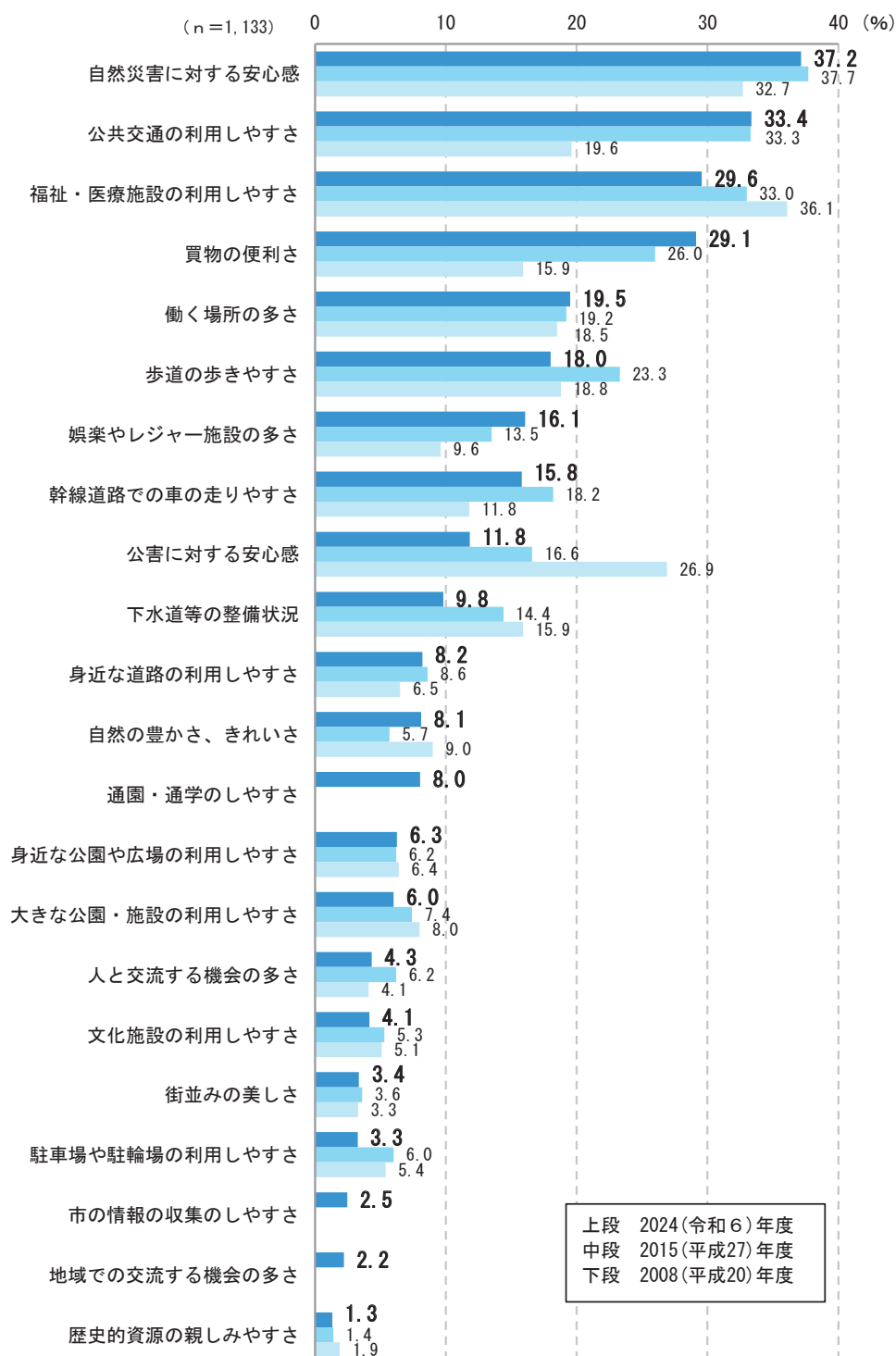
①生活満足度【アンケート票 問5】

- ・「自然の豊かさ、きれいさ」「文化施設の利用しやすさ」などの自然・文化環境については、これまでの調査でも満足度が高い水準にあり、今回の結果ではさらに向上しています。
- ・一方、「働く場所の多さ」「娯楽やレジャー施設の多さ」などのにぎわいに関する事項や「歩道の歩きやすさ」「公共交通の利用しやすさ」といった自家用車以外での交通環境については不満度が高く、これまでと同様の傾向となっています。
- ・「大きな公園・施設の利用しやすさ」は、依然として不満傾向にあるものの、評価点では2008（平成20）年度と比較して、+0.46点と最も上昇しています。その要因の一つとして、2021（令和3）年に開設したふくろう公園の影響が考えられます。
- ・一方、「買物の便利さ」は、2008（平成20）年度と比較して△0.30点、「公共交通の利用しやすさ」は、△0.37点と低下しており、不満度が上昇しています。
- ・総合評価は、2008（平成20）年度と比較して+0.12点となっており、過去2回の調査と比較して、最も高い水準となっています。



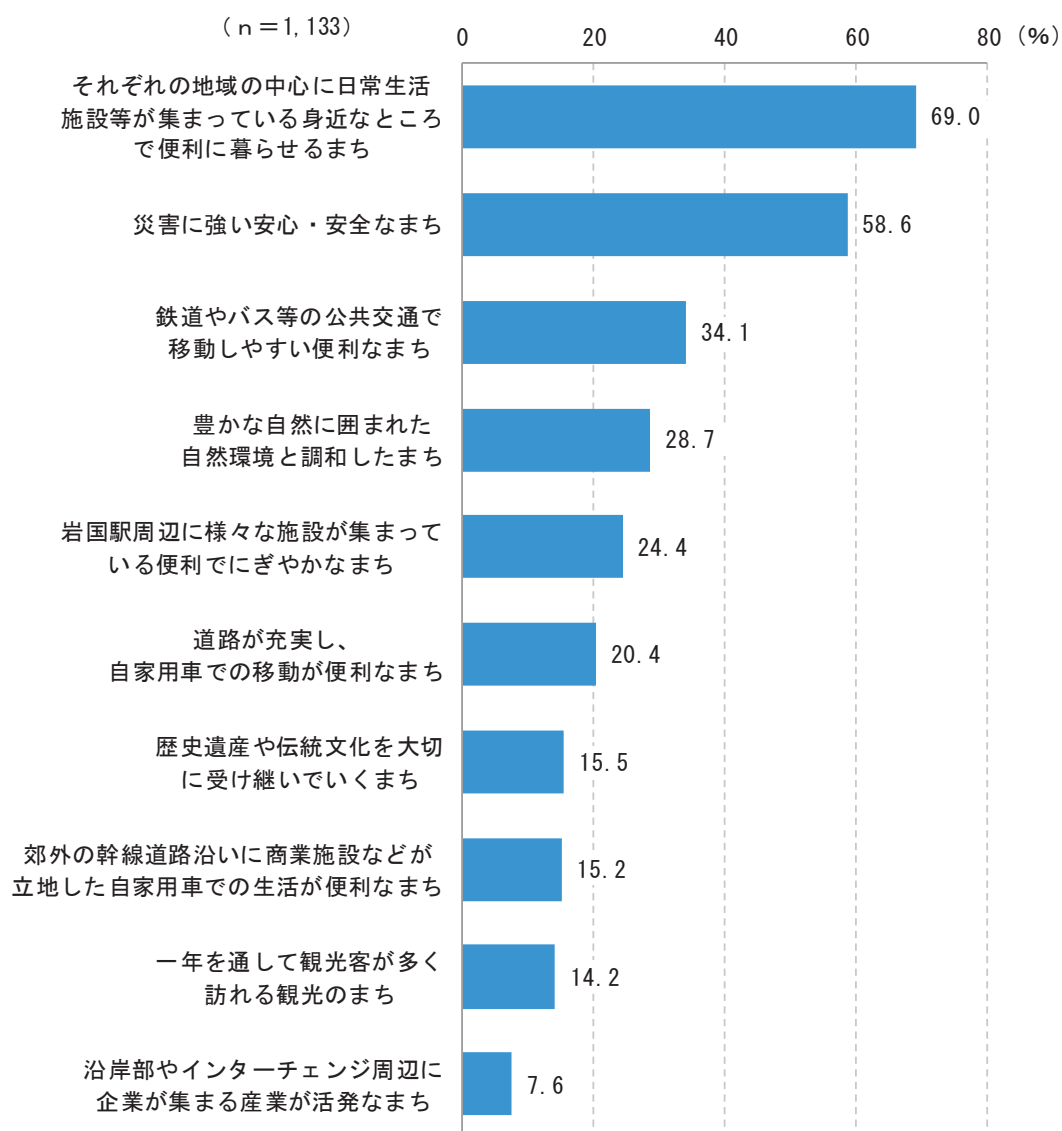
②今後のまちづくりで特に大事なこと（3つまで回答）【アンケート票 問6】

- ・今後のまちづくりで大事なこととしては、「自然災害に対する安心感」が37.2%で最も高く、これまでの調査と同様に高い水準となっています。
- ・次いで「公共交通の利用しやすさ」が33.4%、「福祉・医療施設の利用しやすさ」が29.6%と続いています。
- ・上位項目には、不満の高い項目も含まれているものの、「買物の便利さ」「働く場所の多さ」「娯楽やレジャー施設の多さ」など、まちのにぎわいに関する項目については、回数を重ねるごとに回答結果が上昇しています。



③20年後どのようなまちになって欲しいか（3つまで回答）【アンケート票 問9】

- ・20年後のまちの姿としては、「それぞれの地域の中心に日常生活施設等が集まっている身近なところで便利に暮らせるまち」が69.0%で最も高く、次いで、「災害に強い安心・安全なまち」が58.6%、「鉄道やバス等の公共交通で移動しやすい便利なまち」が34.1%となっています。
- ・利便性と安全性を求める意見が上位に挙げられています。



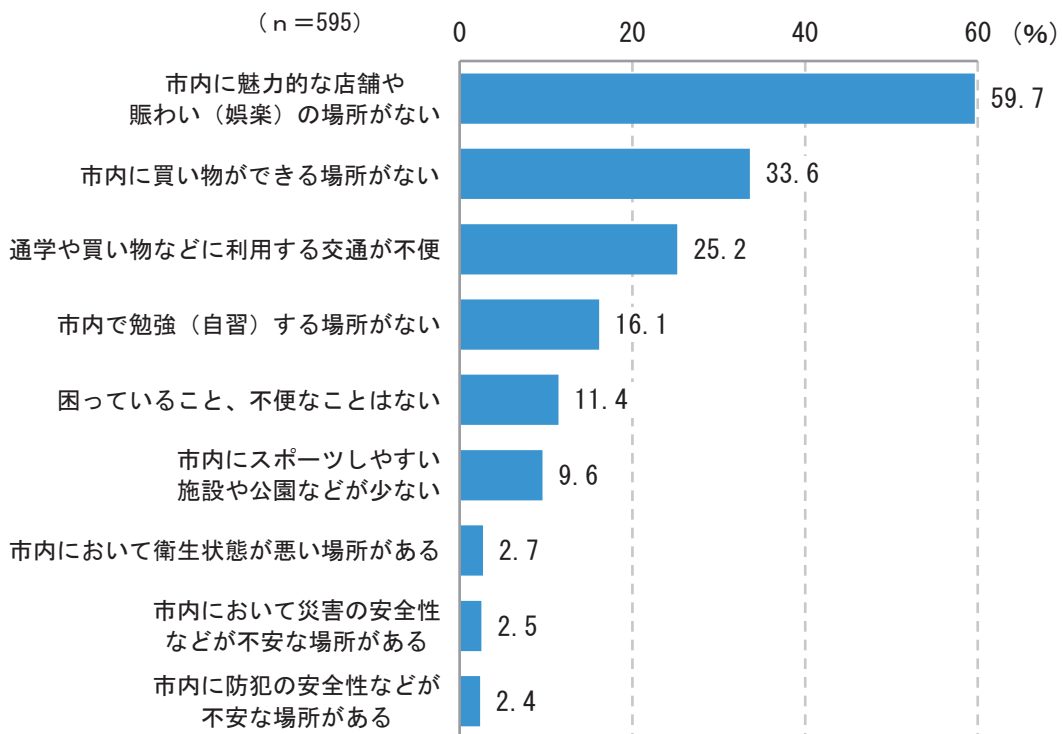
(2) 高校生アンケート

2024（令和6）年10月に、コロナ禍やネット社会の進展等を背景とした若者の日常生活の行動パターンを確認するとともに、まちづくりに関する考えを把握し、計画に反映するため、アンケート調査を実施しました。主な調査結果は、以下のとおりです。

なお、アンケート票は参考資料（P190～）に掲載しています。

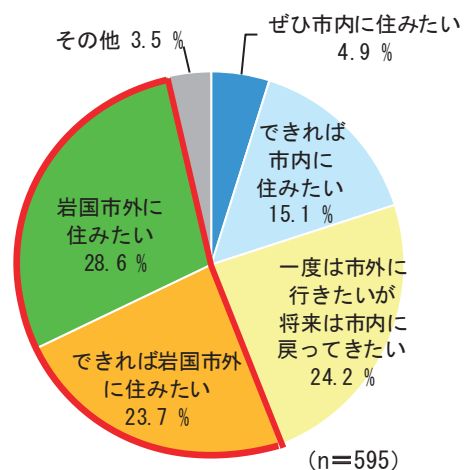
①生活する上で困っていること（2つまで回答）【アンケート票 問3】

- ・生活する上で困っていることとしては、「市内に魅力的な店舗や賑わい（娯楽）の場所がない」が59.7%で最も高く、次いで、「市内に買い物ができる場所がない」が33.6%、「通学や買い物などに利用する交通が不便」が25.2%と続いています。
- ・娯楽や買物等のまちのにぎわいに関する項目が上位に挙げられています。



②将来の居住について【アンケート票 問8】

- ・将来の居住場所としては、「岩国市外に住みたい」が28.6%と最も高く、次いで「一度は市外に行きたいが将来は戻ってきたい」が24.2%、「できれば岩国市外に住みたい」が23.7%と続いています。
- ・「岩国市外に住みたい」と「できれば岩国市外に住みたい」を合すると5割を超えています。



③20年後どのようなまちになって欲しいか（3つまで回答）【アンケート票 問10】

- ・20年後のまちの姿としては、「岩国駅周辺に様々な施設が集まっている便利でにぎやかなまち」が54.3%で最も高く、次いで、「それぞれの地域の中心に日常生活施設等が集まっている身近なところで便利に暮らせるまち」が42.4%、「災害に強い安心・安全なまち」が32.1%と続いています。
- ・高校生で最も割合が高かった選択肢は、市民調査では5番目となっており、市民（18歳以上）と高校生とで求める都市像の優先項目が異なることがうかがえます。

(高校生 n=595、市民 n=1,133)

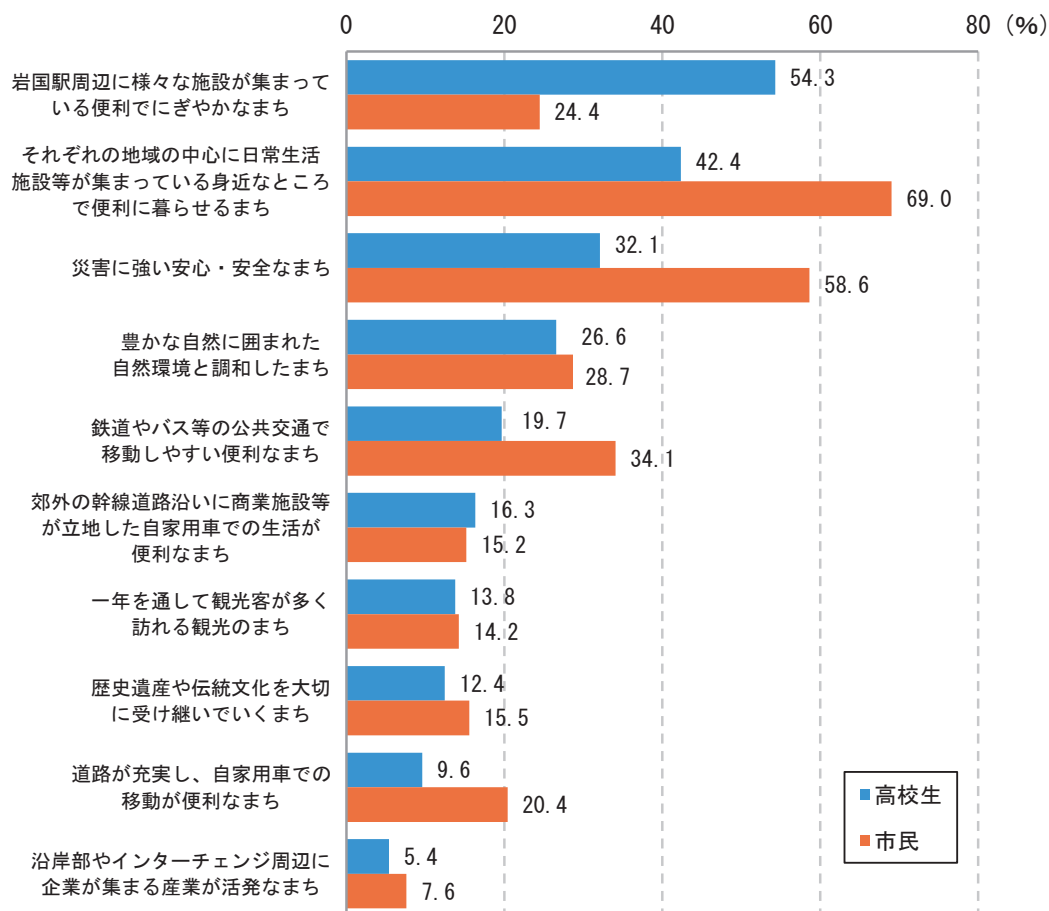


表 高校生及び市民の回答上位5項目

	高校生	市民
1位	岩国駅周辺に様々な施設が集まっている、便利でにぎやかなまち	それぞれの地域の中心に必要な施設が集まる身近なところで便利に暮らせるまち
2位	それぞれの地域の中心に必要な施設が集まる身近なところで便利に暮らせるまち	災害に強い安心・安全なまち
3位	災害に強い安心・安全なまち	鉄道やバス等の公共交通機関で移動しやすい便利なまち
4位	豊かな自然に囲まれた自然環境と調和したまち	豊かな自然に囲まれた自然環境と調和したまち
5位	鉄道やバス等の公共交通機関で移動しやすい便利なまち	岩国駅周辺に様々な施設が集まっている、便利でにぎやかなまち

(3) 地域別ワークショップ

2025（令和7）年6月に地域別構想の作成に向けて、都市計画区域内の岩国地域、由宇地域、周東・玖珂地域において、2回ずつワークショップを開催しました。地域ごとの主な意見は、以下のとおりです。

■ 将来実現してほしいまちの姿（主な意見）

①麻里布・川下地域

拠点整備	・ 駅前に人が多く長く滞留する施設やショッピングセンター ・ 保育・学習・習い事・カルチャービル、子供を預けられる場所
公共交通	・ 岩国駅から移動しやすい公共サービス（バスの路線、MaaS*等）の充実 ・ JRの広島への運行本数の増加
道路	・ 貸し自転車の設置 ・ 歩道、自転車道の整備、国際都市としての標識の外国語併記 ・ 道路網整備はいいけど、車のない地域を作るという発想
観光・レジャー	・ 「岩国」の味をつくりたい ・ イベントや音楽会等が安く気軽に開催できるスペース ・ 錦帯橋観光に来た人が楽しめるサービスをつくり、岩国に宿泊する人を増やす
生活利便	・ 駅前商店街の活性化、若者向けのお店がほしい ・ 歩きやすい・買い物しやすい・病院に行きやすいまち、駅前だからこそ住みたくなるまち
働く場	・ 良い企業の誘致、東京本社とのランチ化、スタートアップ企業の強化
子育て	・ 子どもたちが楽しい小中高をすごせる環境づくり
防災	・ 防災対策に立体駐車場（高層）を活用 ・ 災害に強いまちづくり
デジタル化	・ ネット環境を充実、ドローン等の活用、リモート診療所 ・ ITを使いこなす人材づくり、SNSの効果的な活用
空家・空地	・ JR用地（線路沿い）の活用 ・ 5ha用地で若者が集まるような施設の整備

②西岩国地域

拠点整備	・ 岩国駅西口の再開発
公共交通	・ 新岩国駅と岩国駅・空港等のアクセスの改善 ・ JRの広島への運行本数の増加 ・ 車を運転しなくても不便でない交通手段の充実、個人タクシー・バス等 ・ JR川西駅のスロープ設置
道路	・ 錦川土手沿い、道路幅を広くして欲しい ・ 国道の歩道整備、錦帯橋周りの歩道の整備
観光・レジャー	・ 吉香公園、施設や遊具を増やし、入場料金制を導入する ・ 河川敷（錦帯橋）、川床料理（水害対策をして） ・ 錦帯橋周辺に宿泊場所やレストランを誘致 ・ レストランで格安のスペシャルメニューを出すレストランウィークの創設
生活利便	・ 歩いて行ける範囲に医院や美容院等の生活に必要なお店がある ・ 個人商店等の充実（市からの援助等）、事業を興す人の支援
働く場	・ 岩国に若者の働く場をつくる ・ 岩国で農業を生業にする人を増やす
子育て	・ 基地内の大学を市内に開放する（留学生制度） ・ 子育てをしやすい施設整備、安全に遊べる場所をつくる
防災	・ 錦川の治水・堤防強化、御庄地区の内水対策 ・ 災害に強いまちづくり
デジタル化	・ 人が少なくなくても維持できるまち、ICT、DX*等
空家・空地	・ 休耕地の活用、太陽光パネルやめる
その他	・ 人口が減っても安心安全に暮らせるしくみ ・ 市民がまちを管理できるまち ・ 第1次産業の公務員化、観光も良いが、岩国市内で自給率100%へ

③南岩国地域

公共交通	・ 電車の本数が増えたら学校に行きやすい
観光・レジャー	・ キャンプ場等の自然に親しめる場の整備
生活利便	・ 若者が集まる場所、高齢者が集まれる場所 ・ おちついて集まれる場所、ゆっくりする場所 ・ 映画館、フードコート
働く場	・ 働く場をつくる（若者が帰ってくるように）
デジタル化	・ イベント等の情報提供の充実 ・ SNS の活用、住みやすいまちとして高いポテンシャルを活かす
その他	・ 高齢者にやさしいまち、高齢者同士のコミュニティ ・ 米軍基地があることを強みにする ・ 農業の維持

④南部地域

公共交通	・ 山陽本線の本数の増加 ・ 交通機関のバリアフリー*化
観光・レジャー	・ 錦帯橋を世界文化遺産*登録し、観光の活性化 ・ インバウンド*の増加を活かし、広島に来た人を岩国へ ・ 高齢者の集まり、サロン等
生活利便	・ 堀田・北区の用途指定の再検討、商業誘致 ・ インフラ*のメンテを面→線→点へ、必要なものの選別・縮小 ・ レストランや喫茶の充実 ・ 医療機関の維持、整備
働く場	・ 5G を活用し、新産業を興す ・ 生活産業を興す
子育て	・ 子どもを産んで育てやすい環境づくり
防災	・ 学校の一部を防災拠点化、店舗屋上の駐車場を災害時に避難場所として活用
空家・空地	・ 危険な空家の管理、空家を活用した学習拠点の整備
その他	・ 高齢者の見守り ・ 自治会制度の確保、会員制による活動費の確保

⑤由宇地域

道路	・ 道路を広くする、岩国柳井間のバイパスの早期開通 ・ 学校の通学路整備
観光・レジャー	・ 食事出来る所の整備 ・ 色々な行事を残す（祭り・神楽等） ・ 道の駅の誘致
生活利便	・ 由宇でできる野菜、山のものを身近で買える場所の継続 ・ 堀田・北区の用途指定の再検討、商業誘致
働く場	・ 企業誘致
子育て	・ 大学の誘致をして若者を呼ぶ
防災	・ 地震対策をしっかりと安心して暮らせるようにする
空家・空地	・ 放棄地をなくす ・ 空家対策をして住みやすいまちにする
その他	・ 若者のUターンしやすいまち ・ 家を建てられる場所が必要 ・ いつまでも健康で暮らせるための予防教室を実施する場所を継続する、健康寿命を延ばす拠点になりたい ・ 由宇の中のいいところ、里があり、海があり、それを発信していく

⑥周東・玖珂地域

拠点整備	・周防高森駅前の活性化、駅ビルの建設 ・玖珂駅を利用して、駅前を清らかな住宅地にする、緑を増やす ・玖珂インター（山陽道）、岩徳線がある、高森高校があるという強みを活かす
公共交通	・過疎化対策として岩徳線を守る、ライトレール*化してコンパクトなまちづくり ・電車の本数の増加、生活スタイルにあったバスの便の確保 ・駅舎の改装（シニア世代が集える場にする、喫茶店や食堂を作る、足湯を設置） ・高齢者の移動手段の確保（交通バスの充実、乗合タクシーの導入）
道路	・岩国西バイパスの整備、県道玖珂周東線の拡幅 ・道路網の整備、身近な道路の整備、歩道整備、橋の更新
上下水道	・上下水道の早期整備
観光・レジャー	・周東の豊かな自然と長い歴史を活かしたまちづくり、今ある資源を有効に使う ・中山湖周辺の公園化 ・若い女性に人気のスポットを整備 ・特産品（お肉）を使った PR、瀬祭とのコラボ ・島田川沿いに桜を植える ・娯楽施設の誘致 ・スポーツのまちへ
生活利便	・移動スーパーや移動 ATM の充実 ・商店街の活性化、店舗、飲食店等を増やす ・病院等医療施設の充実、町の保健室づくり（体のケアや相談、メンタルヘルス） ・玖珂公民館、保健・福祉センターの整備
働く場	・周東テクノポートを拡大し IT 産業誘致して若者の働く場の確保 ・若い人が仕事を確保できるような対策 ・年をとっても働ける場
子育て	・親子で遠慮なく遊べる施設の整備 ・高森高校を守る（高森みどり中の再考） ・子どもが育ちやすい環境・整備（保育園～中学） ・魅力ある子育て支援
防災	・東川、島田川等の防災対策 ・水害に強いまちづくり（台風のために避難している）
空家・空地	・廃校の有効活用 ・空き家の再利用される町 ・古い建物（歴史的建造物）や街なみを守る会等、住民活動ができるとよい ・I・J ターンでの空家の活用
その他	・若者が住みやすいまち ・高齢者の住みよい街として地域指定、地域の中心に高齢者が住みやすい場所を整備 ・公共施設をもっと人が集まれる場所にする ・外国人とコミュニケーションがとりやすい環境づくり ・シニアの学校、学べる場、交流、若い人からお年寄りまで交流できる場所 ・自治会活動を大事にする、まちのコミュニティ、お祭りの維持 ・儲かる農業、農地の集約、スマート農業、営農指導 ・遊休地の活用 ・農地の公営化、農業の活性化、後継者育成

4. 策定当初からの社会状況の変化

① 人口減少・少子高齢化の進行

日本では急速な人口減少と少子高齢化が進行しており、この状況は今後も更に進むことが見込まれています。

特に地方都市や郊外において、若年層の流出と高齢者の増加による地域活力の低下が課題となっており、人口減少下においても必要なサービスを持続的に提供できる都市への再編の必要性が高まっています。

② 財政制約とインフラの老朽化

全国の多くの自治体では、人口減少や高齢化の進行に伴う税収の減少や社会保障費の増加により、道路や施設の整備への投資に対する制約が強まっています。

また、高度成長期に整備されたインフラの老朽化が進み、維持管理や更新に多額の費用が必要となっており、限られた財源の中で、事後保全的な対応から予防保全的な管理への転換や施設整備の優先順位の設定による、財政負担の平準化を図ることが求められています。

③ 自然災害の頻発・激甚化

近年、自然災害が頻発・激甚化しており、これまで災害リスクが低かった地域でも被害に見舞われるケースが増えています。

このような状況を受けて、国及び自治体では、人命を守ることと経済社会への被害が致命的なものにならずに迅速に回復する、「強さとしなやかさ」を備えた国土、経済社会システムを構築する国土強靱化に取り組んでいます。

④ 脱炭素社会*の実現に向けた施策・事業の加速化

地球温暖化対策として、2050（令和32）年までのカーボンニュートラル*の実現が国際的な目標となっています。

二酸化炭素の排出量の削減は自治体においても大きな課題であることから、自動車依存の高い交通環境の見直しや再生可能エネルギー*の導入、建築物の省エネ化等の取組のほか、都市構造の再編等、都市のあらゆる分野での脱炭素化に向けた取組を早急に進める必要があります。

⑤ デジタル化の進展

行政サービスのオンライン化やIoT*・AI*の活用、新技術を活用した交通、防災、エネルギー管理等、都市におけるデジタル化が急速に進んでいます。

これらの技術を活用することで、住民の利便性向上や業務の効率化だけでなく、地域の課題解決にもつながる可能性を有していることから、今後のまちづくりの発展において重要な要素となっています。

⑥ コロナ禍を経た暮らし方や働き方の変化

新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、テレワーク*やオンライン教育等が普及し、人々の暮らし方や働き方に大きな変化が生じました。

これまでの通勤利便性よりも住環境の快適さや地域での生活サービスの充実を求める傾向が強まり、郊外や地方への移住を選ぶ人も増えてきていることから、このような新たな居住ニーズに対応した地域づくりが求められています。

⑦ ライフスタイルの多様化

単身世帯の増加や共働き世帯の一般化、若者の価値観の変化により、ライフスタイルはますます多様化しています。これに伴い、住まいや都市空間に求められる機能も変化しており、居住・商業・交流・文化等の多様なニーズに応える都市構造の構築により、都市の魅力の向上につなげることが重要となっています。

⑧ インバウンド効果による地域経済の活性化

訪日外国人観光客の増加により、地域の観光資源や都市の魅力が経済活性化に直結するようになっていきます。

観光客の滞在時間を延ばし、地域内での消費を促進するためには、観光・商業・文化機能の整備が不可欠であり、また地域のブランド力を高めることで、国内外からの交流人口を増やし、持続的な経済成長につなげることを期待されています。

5. 岩国市の特性と課題を踏まえた目指す都市の姿

前段の岩国市の現状、市民・高校生アンケートや地域別ワークショップの結果、社会状況の変化等から都市の特性と課題を整理した上で設定した本市が目指す都市の姿は、次のとおりです。

都市の特性と課題－1

- 本市の都市形成の起源である城下町地区や、合併前の旧市町の中心部である岩国駅周辺、由宇、周東、玖珂においては、都市の成り立ちとともに、一定の都市機能を有する市街地が形成されています。
- 少子高齢化が急速に進行しており、生産年齢人口の減少による地域の活力低下や、公共や民間による生活サービス低下が危惧されています。
- 他市に比べて公共施設が多く、老朽化が進んでいる状況にあり、今後、財政状況が更に厳しくなることが予想されていることから、早急な対応が必要となっています。
- 都市計画決定後、長期未着手となっている都市計画道路や都市計画公園、土地区画整理事業等があり、今後のあり方を検討しています。



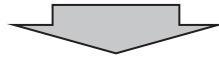
■ 目指す都市の姿－1

① 将来を見据えた持続可能な都市経営の実現を目指すまちづくり

- 都市拠点形成と公共交通ネットワークによる「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現を目指します。
- 人口減少に伴う財政制約を見据え、これまでの新しく整備する手法から転換し、既存の公共施設の長寿命化と再編を進めます。
- 効果的な施策・事業の実施により、持続可能な都市経営を目指します。

都市の特性と課題－２

- ・歴史的・文化的なつながり等を背景とする本市の特性を都市づくりに活かし、都市の活力につなげる必要があります。
- ・人口減少下においても便利で快適な日常生活を送れるような都市づくりを進める必要があります。



■ 目指す都市の姿－２

② ヒト・モノ・カネが集まるにぎわいのある拠点を活かしたまちづくり

- ・岩国市街地の中心部や各地域の中心部に、役割に応じて必要な都市機能を集積し、機能の強化・維持を図ります。

都市の特性と課題－３

- ・山陽新幹線新岩国駅や山陽自動車道岩国インターチェンジや玖珂インターチェンジ、岩国錦帯橋空港等の広域交通結節点*が市街地近郊に存在しています。
- ・周辺都市を結ぶ国道２号や国道１８８号等の主要道路における慢性的な交通渋滞は、市民の生活や産業活動の妨げになっています。
- ・山口県の東に位置する本市は、市民の日常生活や産業、文化において、広島都市圏や島根県と密接なつながりを持っています。
- ・広大な市域を有する本市においては、市街地部と農山村部とが連携し、それぞれの特性を活かした仕組みづくりが求められています。
- ・地形上の制約等により、各地域の拠点間を結ぶ道路・交通ネットワークが限られています。
- ・自家用車を中心とした生活様式等を背景に商業施設等の都市機能の分散化がみられ、既成市街地での生活利便の低下、拠点性の低下が危惧されています。



■ 目指す都市の姿－３

③ 恵まれた交通環境を活かした魅力あるまちづくり

- ・本市の交通利便性を活かして、臨海部及び内陸型の工業振興を図ります。
- ・都市部と農村部の交流により、市内でヒトやモノが循環する産業振興を図ります。

都市の特性と課題－ 4

- ・ 市民生活に最も身近な都市施設である道路や公園、下水道等の整備が遅れている地区がみられ、安心・安全かつ快適な市街地環境の形成に向けて、早期整備が求められています。
- ・ 高齢化が進行する中で、自家用車に過度に頼りすぎない生活が送れるように、安全な歩行空間の整備や誰もが利用しやすい公共施設に改善する必要があります。



■ 目指す都市の姿－ 4

④ 誰もが安全で快適に暮らすことができるまちづくり

- ・ 良好な住環境の保全・形成と公共施設のユニバーサルデザイン*化を進めます。

都市の特性と課題－ 5

- ・ 本市は、山、川、海等の豊かな自然環境を有しており、その中で瀬戸内海の沿岸部や山間部等に市民生活の場が点在する、自然と都市（まち）が密接な関係にある都市となっています。
- ・ 自然環境は人々の生活に大きな影響を与えることから、適切に維持・保全する必要があります。



■ 目指す都市の姿－ 5

⑤ 豊かな自然環境を守り育てるまちづくり

- ・ 市の北部を中心とした水と緑による豊かな自然環境の維持・保全を図ります。
- ・ 市街地の背景や盆地を構成する丘陵部、錦川・島田川等の河川環境の保全を図ります。

都市の特性と課題－ 6

- 錦川にかかる錦帯橋に代表される城下町地区については、国の重要文化的景観*に選定されており、これらの保存と活用を図りながら、次代に継承していく必要があります。
- 市内各地には歴史的な建造物や伝統行事等が地域の人々によって守られ、引き継がれています。
- 岩国錦帯橋空港の開港により、広域的な交流機会がこれまで以上に増加していることから、市民のみならず来訪者にとっても魅力ある都市と感じられるよう、本市の資源が有する魅力を広く紹介するとともに、有効に活用する取組が求められています。



■ 目指す都市の姿－ 6

⑥ 歴史、文化等の地域資源を活かしたまちづくり

- 錦帯橋周辺の歴史資源や旧街道と宿場町、美しい田園風景等、市内全域に数多く分布する地域固有の資源を活かして、地域の魅力を発信し、活力の創出を図ります。

都市の特性と課題－ 7

- 本市でも 2005（平成 17）年の台風 14 号のほか、2018（平成 30）年 7 月豪雨（西日本豪雨）等、自然災害が頻発・激甚化しており、浸水被害等を受ける頻度が増えていることから、避難場所や避難路の整備等、自助・共助・公助による防災体制の構築が急がれています。
- 地震や豪雨等による自然災害に対して、土砂崩れや浸水被害等の被害の発生が想定される地区が市街化区域の縁辺部等で多くみられます。
- 道路が狭いのに対し、家々が隣接する等、火災に対して延焼の危険性のある地区や、円滑な消防活動が困難な地区もみられます。



■ 目指す都市の姿－ 7

⑦ 災害に強いまちづくり

- 錦川や島田川等の洪水対策と浸水のリスクがある市街地での防災機能の強化を図ります。
- 土砂災害に対する防災機能の強化を図ります。
- 自然災害に対して安全な居住地への居住の誘導を図ります。
- 頻発・激甚化する自然災害に対して円滑に避難できる対策を進めます。
- 家屋が密集する地区では、生活道路*の拡幅による地域の防災機能の強化を図ります。